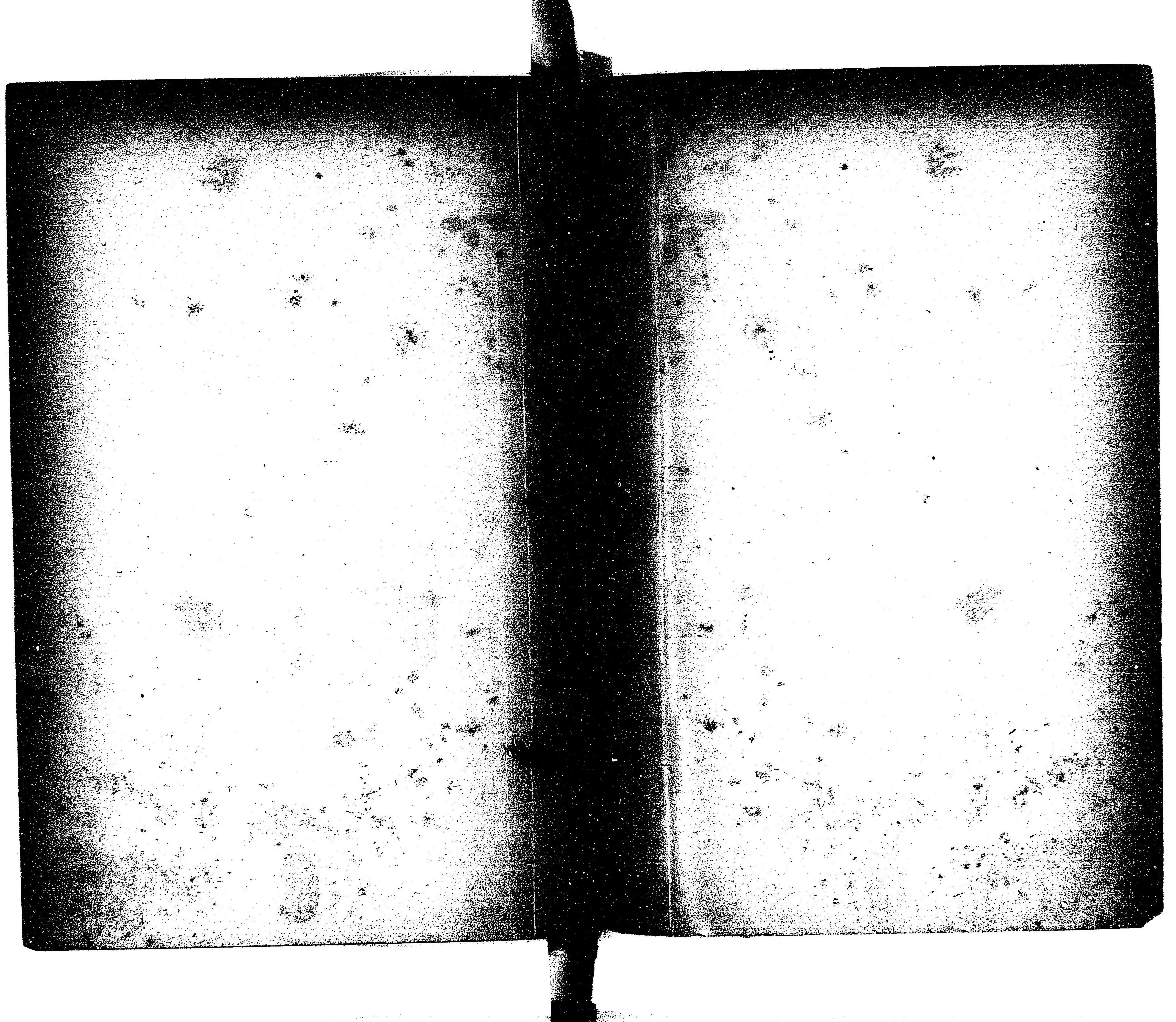


319  
234

住民地及森林之戰鬪 上卷









軍需商會編纂部著

佳民地

及森林之戰鬪

上卷

明治  
43. 1. 27  
内交

發行所

軍需商會出版部



## 緒言

- 一、凡ソ戦闘就中局地戦ニ於テ村落若ハ森林ノ戦闘場裡ト爲ラサル事ハ殆ト稀ナリ故ニ之カ研究ノ必要ヲ認メ本書ヲ編纂セリ
- 二、本書ハ千八百九十五年伯林ニ於テ陸海軍兵事學ニ關スル出版業「アール、アイゼンシュミット」ニ於テ發行セシ森林及村落戰（書中「R書曰ク」トアルハ本書ノ畧符ナリ）ヲ基礎トシ之ニ諸種ノ書籍ヲ參照シテ編纂セシモノ若夫レ讀者ヲ裨益スルコトアラハ本會ノ光榮トスル所ナリ
- 三、日露戰役ニ於テハ住民地ノ好列証アルモ良好ナル戰史ノ出版ナキヲ以テ他日ニ讓リ完成ヲ期セントス



# 住民地<sup>及</sup>森林之戰鬥上卷目次

## 總論

第一章 特性用途及具備スベキ要件	二
第一節 防禦上村落及森林ノ特性及用途	三
(甲) 防禦上村落及森林ノ特性	三
(乙) 大小森林ノ利害及用途	六
(丙) 攻撃上森林ノ價值	八
(丁) 森林及村落ノ特性結端	八
(戊) 村落ト森林トノ特性比較	一〇
(己) 本邦及清國ニ於ケル村落ノ特性及本邦ノ村落ト歐洲ノ村落トノ差異	一二



(一)本邦村落ノ特性	一三
(二)清國村落ノ特性	一四
(三)本邦ノ村落ト歐洲ノ村落トノ差異	一六
(庚)本邦森林ノ特性	一七
第二節 村落ノ具備スヘキ要件	一八
第二章 守 者	一九
第一節 周縁、複廓、地障	一九
周縁	一九
複廓	二〇
地障	二〇
複廓ト地障ノ差異	二一

複廓ノ價值及用途	二一
地障ノ價值及用途	二一
複廓ニ具備スヘキ性能	二三
地障ニ具備スヘキ性能	二三
第二節 防禦ノ部署	二四
(甲)防禦線位置ノ決定	二四
(一)縁端ヨリ前進及縁端ノ占領	二五
(二)縁端内ニ後退	二六
(乙)防禦線内ニ在ラサル森林(村落)占領ノ可否	二七
森林(村落)戦闘線ノ前方ニ在ルトキ	二七
森林(村落)防禦線上或ハ後方ニ在ルトキ	二八



防禦線ノ側面ニ控ユル森林(村落)占領ノ可否	三〇
(丙)地形偵察、防禦設備及其擔任	三一
防禦上森林ノ具備スヘキ要件	三二
村落防禦力ノ判斷上着眼スヘキ要點	三二
偵察ノ要件	三三
目的ニ由ル防禦設備ノ要領ノ差異	三五
戰鬪前施行スヘキ防禦設備	三五
防禦地區ノ區劃及其防禦設備	三五
支撐點ノ編成	三七
牆壁ノ彈丸ニ對スル價值	三九
前地ノ設備ニ於テ特ニ注意スヘキ事項	四三
鏡眼、帽堡ノ穿開及築設	四三

四

地物ノ應用	四三
工事ノ擔任及指導	四四

第三節 防禦ニ於ケル諸兵種ノ用法

(一)歩兵	四五
(二)騎兵	四五
(三)砲兵	四七
森林緣端ニ放列ノ布置	四八
村落内ノ緣端ニ放列ノ布置	四九
村落ノ前方ニ放列ノ布置	五〇
村落又ハ森林ノ後方ニ放列ノ布置	五〇
村落又ハ森林ノ側方後ニ放列ノ布置	五〇

五



(四)工兵.....五二

六

第四節 守者ノ兵力及區分.....五二

村落(森林)ノ防禦ニ任スル歩兵部隊ノ區分.....五三

(甲)村落(森林)占領部隊ト外部豫備隊トノ兵力比例.....五三

村落(森林)占領部隊ノ兵力.....五五

防禦地區ノ區分.....六〇

村落(森林)占領部隊ノ區分.....六一

緣端守兵ト内部豫備隊トノ兵力比例.....六二

内部豫備隊ノ位置.....六二

(乙)外部豫備隊.....六四

兵力.....六七

任務.....六五  
位置.....六五

### 第三章 攻者.....六六

第一節 攻撃ニ於ケル兵力區分及諸兵種ノ用法.....六六

(一)歩兵.....六七

(二)騎兵.....六九

(三)砲兵.....七〇

(四)工兵.....七二

第二節 偵察及砲戰.....七二

偵察ノ要件.....七二

七



偵察	七三
攻撃方法ノ選定	七三
砲戰	七四

住民地及森林之戰鬥上卷目次終

住民地及森林之戰鬥 上卷

總論

住民地トハ村落、市街、農廈(邸)ヲ總稱ス夫レ村落及農廈ハ屢々戰鬥ノ媒介ト爲リ自ラ其焦點ト爲ルモノナリ即チ防者ハ之ヲ占領シテ堅固ナル支撐點ヲ成形シ攻者ハ之ヲ利用シテ攻撃ノ據點ト爲ストヲ得ヘシ(日、歩、操、百〇一ノ一ノ前段)然レトモ市街殊ニ其圍墻ナキモノハ之ヲ占領シテ防禦セラル、ト稀ナルモノナリ何トナレハ市街ヲ戰鬥場裡ト爲スハ人情ノ欲セサル所也市街自ラ防禦ニ便ナラサルヲ以テナリ故ニ若市街ノ近傍ニ於テ防禦スルヲ要スルトキハ防禦線ヲ其縁端ヨリ離隔シテ前方郊外ニ選定シ之ヲシテ兵燹ヲ蒙ムルヲ免レシメントスルヲ常トス

(例) 千八百七十年アミアン及オルレアンニ於ケルカ如シ



市街内部ノ戦闘ハ野戦間發生スルコト頗ル稀ナルモ要塞戰(ザラゴツサ及ブエア)ニ於テハ其例ニ乏

シカラス然レトモ叛亂及一揆ノ騷擾ニ於テハ屢々發生スルモノトス

農厦ニ於テハ通常戦闘ヲ持久スルコト能ハス蓋シ攻撃砲兵(兵及歩)ノ射撃ハ農厦周邊及其内部ノ

守兵ヲモ合セ同時ニ挫折スルニ至ルヲ以テナリ況ンヤ孤立ノ農厦ハ稍々強大ナル砲兵ニ依ルモ

忽チ其防禦力ヲ喪失スルノ不利ヲ有スルモノナルオヤ

(例) 千八百十四年ヲ、アイエサント、ベリユアリアンス附近ノウーゴモン城、千八百七十

年ワイセンブルヒノガイスベルヒ城ノ如シ

以上ノ理由ニ依リ以下論スルモノハ村落及森林ノ戦闘並市街内部ノ戦闘ニ關ハル就中村落及森

林ノ戦闘ハ村落及森林ヲ支撐點トシテ之ヲ防禦シ又ハ之ヲ攻撃スル場合ヲ立前トシテ論述セシ

## 第一章 特性、用途及具備スヘキ要件

### 第一節 防禦上村落及森林ノ特性及用途

(甲) 防禦上村落及森林ノ特性

其利左ノ如シ

- 一、守者ハ其軍隊ヲ内部及後方ニ隱蔽スルコトヲ得
  - 二、歩兵ハ依托射撃(森林ニ在リテハ樹枝ニ、村落ニ在リテハ窓又ハ其破口等ニ依托スルヲ得)ヲ爲スニ便ナリ
  - 三、攻者ノ侵入ヲ妨止スル爲其周縁並内部ニ障礙物ヲ設置スルコト迅速且容易ナリ
  - 四、家屋ノ構造煉瓦若ハ石ヨリ成リ且堅固ナル圍壁ヲ有スル住民地ハ敵ノ砲彈ニ對シ良好ノ掩護ヲ與フ之カ爲其周縁ハ戦闘ノ主線ト爲ルヘシ(日、步、操、百〇五ノ一ノ前段)
- 此故ニ森林、農厦及村落ハ防禦ノ爲自然ノ支撐點ト爲ルモノニシテ方今ノ戦闘ニ在リテハ其焦點ト爲ル而シテ若其周邊ノ地ヲ十分ニ掃射シ得ルトキハ多クハ陣地ノ鎖鑰點ト爲ル
- 村落ノ周圍堅牢ナルトキハ縦ヒ防禦ノ軍隊寡少ニシテ且平野ニ於ケル戦闘ニ堪エ難キ微弱ノ步



兵ト雖精練ナル軍隊ニ對シテ有利ノ抵抗ヲ爲シ其勝利ヲ收メタル戰例尠ナカラス況ンヤ教育周到軍紀確立シタル歩兵ニ於テオヤ其害左ノ如シ

- 一、森林内殊ニ村落内ハ通視不十分ナルヲ以テ戰鬪ノ指揮及運動困難ニシテ動モスレハ隊伍紊亂復タ收ムヘカラサルニ至ル戰鬪久キニ彌レハ殊ニ然リ加之戰鬪不利ナルトキハ隊伍潰亂又全ク收集シ能ハサルニ至ルノ虞多シ(日、步、操、百〇一ノ一ノ末文參照)
- 二、攻者一タヒ森林内ニ侵入シタルトキハ守者ノ利ハ殆ント消滅シ攻守ノ利害相平均シ共ニ紛戰亂鬪ニ至ルヲ常トス而シテ此場合ニ於テハ志氣旺盛ナル者勝利ヲ占ムルヲ常トス
- 三、砲火ノ慘害ヲ被ルコト特ニ烈シク單ニ銃砲聲ノ其内部ニ反響スルト樹枝瓦石類ノ飛散スルトノ爲志氣沮喪シ易ク且危害ヲ増加シ木造家屋ヨリ成ル住民地ハ敵彈ノ爲火災ニ罹リ易シ

以上ノ理由ニ依リ第一第二項ノ弊害ハ其掩蔽物大ナルニ從ヒ亦愈々増加スルヲ以テ廣大ナル村

落及森林ハ良好ノ障地ニアラス

(同、築、草、百) 森林ハ敵ノ通視ヲ遮キルノ効アリト雖下枝及下草繁茂ノ度ト其種類トニ依リテ我運動及指揮ヲシテ困難ナラシムルノ不利アリ故ニ之カ防護設備ニ際シテハ特ニ交通路ノ處置及其標示ニ注意スヘシ

(同、築、草、百〇五ノ一) 家屋ハ概シテ砲彈ノ威力ヲ防クニ足ラサルノミナラス特ニ厚キ壁ヲ有スルモノニアラサレハ小銃彈ニ對シテ亦安全ナラス

基本戰術講授錄ニ曰ク「某論者曰ク林縁ハ森林ノ主ナリ故ニ森林ハ林縁ノ争ヒナリト又昨年(自註。明治二十九年)迄行ハレタル(舊操典ヲ謂フ)歩兵操典ニモ此論旨ヲ以テ記載セリ夫レ然リ豈ニ夫レ然ランヤ予ハ謂ハントス林縁ヲ主トスル森林戰ヲハ勉メテ避クヘシ唯森林ハ森林外ニ於テスル決戰ノ爲ニ依賴點ト爲ルヘシト其理由ハ森林ハ攻者ニモ守者ニモ共ニ利ヲ與フルコト少ナクシテ弊害多キヲ以テナリ而シテ其害タルヤ軍隊ノ最モ忌ムヘキ指揮ノ困難、兵力集結、進退運動ノ至難ナルニアラスヤ。斯クノ如ク論シ去レハ森林ハ決戰ヲ以テ目的トスル防禦ノ



爲ニハ一補助物タルニ過キス即チ林縁ニ據ル所ノ兵ヲ以テ戦闘ヲ支柱シ援隊、豫備隊等ヲ森林ニ依リテ掩蔽シ以テ敵ノ接近ニ方リ之ヲ林外ヨリ使用シテ決戦ヲ爲ス是ナリ之ニ對スル攻撃ニ於テモ亦然リ一部ノ兵ヲ以テ敵ヲ森林。外ニ繋留シ大ナル豫備隊ヲ以テ林外ニ運動シ以テ守者ノ退路ニ出ツルコトヲ謀ルヘシ故ニ森林ハ決戦ヲ避クル爲ニハ利トシテ用ユヘキモノニアラスト。

(乙) 大小森林ノ利害及用途

○森林ノ大小廣狹ハ戦闘ノ利害ニ大ナル關係ヲ有ス夫レ森林廣大ナルトキハ騎砲兩兵ノ戦闘ヲ妨害スト雖小森林散布スルトキハ此兩兵種ハ其森林ノ側方或ハ中間ノ土地ニ於テ行動シ得ルモノトス

大森林ニ在リテハ攻者ハ敵ノ占領セサル林縁ヨリ侵入セラルルノ不利アルノミナラス一般ニ森林ノ突出部ハ攻者ノ包圍ヲ蒙リ十字火ヲ被ムルノ不利アリ  
大森林ノ利害及其用途ニ關シクンツ氏著書ニ述フル所左ノ如シ

大森林ハ騎兵及砲兵ノ使用ニ便ナラサルモ持久戰ヲ以テ時間ヲ移スニ利アリトス(自註。廣大ナテ唯其一部ヲ占領スルトキハ敵ヲシテ其占領シタル陣地ノ側面ヲ攻撃セシムルノ不利アリ故ニ斯ノ如キ場合ニアリテハ唯一時敵ヲ拒止スル爲其林縁ヲ占領スルニ適スルノミ)

(例)千八百〇七年露軍 Friepand ノ戦闘前同地ノ下方 Roekelheim 附近 Astranitz 及 Fr-iceling 西林間ニ陣地ヲ占領シテ佛軍ノ前進ヲ妨止シ得タリ此兩林ハ共ニ濕地ニシテ通過スヘカラサルノミナラス甲ハ其長三哩乙ハ五哩ニシテ共ニ Königsherg ヨリ二哩ノ處ニ達シ且兩森林間ニ Alle 河ノ貫流スル地域ハ狹小ニシテ寡弱ノ部隊之ヲ守備スルモ以テ大軍ノ前進ヲ防止スルヲ得ヘク敵軍遠ク迂回セント欲スルモ亦之ヲ拒止スルコト容易ナリキ

戰史ヲ繙ケハ小森林ハ概シテ外翼依托ノ爲ニ良好ナル成績ヲ收メタルノ例蓋シ多キモ其大ナルモノニ至リテハ其用ヲ見ルコト少ナシ(自註。小森林ニ在リテハ十分ノ兵力ヲ以テ之ヲ占領スルトキハ戰術上良好ナル支撐點ト爲ルモノナリ然レトモ其兵力寡少ナレハ其害大ニ森林ニ異ラス)

(例)千八百〇六年露軍、Palisk 附近ニ於テ Mosino 森林ニ陣地ノ右翼ヲ依托シ殊ニ此季



節(十二月)ニ在リテ Mosin 小河ノ状態敵ノ迂回ヲ許サス必ス此森林ヲ奪取シタル後  
前進スルヲ要セリ然ルニ露軍ハ防戦能ク努メ悉ク佛軍ノ攻撃ヲ撃退セリ  
又森林ノ大ナルモノニ在リテハ之ニ依托スルノ利ヲ享有スルコト稀ナリ

(丙)攻撃上森林ノ價值(基本戰術講授録)

攻者ニ與フル森林ノ利益ハ其森林前ノ地形如何ニ關スルモノニシテ一般陣地ト異ナル所ナク結  
局攻者ニ特有ノ利ナルモノナク寧ロ其害トスル所左ノ如シ

- 一、林縁ニ侵入スルモ其前縁(彼端)ヲ占領スルニアラサレハ未タ勝利ヲ制スルヲ得ス
- 二、森林内ニ侵入シタル時ハ軍隊ハ指揮及整頓甚タ困難ナリ從ツテ動モスレハ伏兵等ノ爲奇襲ヲ蒙ルノ虞アリ然レトモ此時期ニ於テ攻守兩者共ニ紊亂スルヲ以テ勇猛果敢ニ動作スル者勝利ヲ制スルヲ得ヘシ

(丁)村落及森林ノ特性結論

以上述ヘタル利害ヲ推究スレハ左ノ結論ヲ得ヘシ

- 一、其著シキ弊害ハ村落及森林ノ大ナルニ從ヒ益々増加スルヲ以テ其大ナルモノハ良好ノ陣地ニアラス其小ナルモノニ至リテハ支撐點トシテ有利ニ應用セララル
- 二、村落及森林ニ據リテ防禦スルニハ軍隊ヲシテ直接ニ之ヲ占領シテ防守スルノミナラス  
(所謂占領部隊)尙村落及森林ノ外部配置(所謂外部豫備隊)スルヲ要ス斯ノ如ク外部ニ配置セラレタル部隊ハ前ニ述ヘタルカ如キ弊害ヲ蒙ルルコトナク而モ之ニ據リテ掩蔽セラレ且攻勢移轉ニ便ナルノ利アリ
- 三、村落ノ周邊ヲ防禦スル場合ニ在リテハ其内部ニ多數ノ軍隊ヲ容ルルハ之ヲ避ケサルヘカラス(日、歩、操、百〇五ノ一)  
敵火ノ爲ニ火災ニ罹リ易キ木造家屋ヨリ成ル村落ハ寧ロ前方ニ火線ヲ設ケ村落ハ單ニ後方部隊ヲ陰蔽スルニ止メシムルヲ可トスルコトアリ(同上百〇五ノ二)  
軍隊ヲ分チテ家屋内ニ入ラシムルハ必要已ムヲ得サル時ニ限ル何トナレハ斯ル軍隊ハ全ク指揮官ノ掌裡ヲ脱シ且斯ル家屋ニシテ敵方ヨリ望見セラルル時ハ敵砲火ノ慘害ヲ被ム



ルニ至ルヲ以テナリ然レトモ家屋ノ構造堅牢ニシテ頑強ノ抵抗ヲ爲スヘキ場合ニハ寧ロ  
縁端ヲ棄テテ各家屋ヲ防守シ歩々ノ抵抗ヲ爲スヲ可トスルコトアリ然ルトキハ交通連絡  
ノ爲所要ノ工事ヲ爲スヲ要ス(同上百〇五ノ三)

四、家屋ノ構造堅固ナル村落ハ適當ニ防禦セハ縦ヒ敵ヨリ全ク包圍セラルル場合ニ在リテモ  
尙之ヲ維持シ得ヘキモノトス(同上百〇七ノ四)

(戊)村落ト森林トノ特性比較

○村落ノ周縁ハ森林ニ比スレハ堅固ニシテ障碍物ニ富ムモ森林ノ周縁ハ障碍トヲ呈セサ  
ルノミナラス之ニ鹿柴ヲ設クル時ハ却ツテ自己ノ射撃ヲ妨害スルニ至ル故ニ鹿柴ヲ周縁ニ設置  
スルハ之ヲ占領セントスル目的ニアラスシテ單ニ之ヲ閉塞シ側射ニ依リテ之ヲ防守セント欲ス  
ル目的ヲ有スル時トス

○村落ノ廣袤ハ通常適當ナルモノ多クシテ廣大ニ過クルモノナシ然レトモ村落内部ニ於テハ路  
外ノ運動困難ナリ森林ハ村落ヨリモ廣大ニ失スルモノ多シ然レトモ大ナル森林ハ敵砲ノ爲ニ苦

メラルルコト少ナキノ利ヲ有ス而シテ其内部ノ運動等ノ状態ハ樹木ノ大小及疎密ニ依リテ異ナ  
ルモノニテ即チ左ノ如シ

鬆疎ニシテ樹幹ノ大ナル森林ハ掩蔽ト爲リ且運動自在ナルヲ以テ最モ便利ナリトス

樹叢ヲ有スル森林ハ敵眼ニ遮蔽スルノ利ヲ與フルモ運動困難ニシテ通過ヲ許ササルヲ常トス若

低樹(棘類)密ニ繁茂スル時ハ其害殊ニ著シク遂ニ防禦ニ適セサルニ至ル

稚樹及苗樹ハ掩蔽十分ナラス且運動困難ナルヲ以テ不便ナリトス

○村落ノ内部ハ抗戰ノ爲重層セル新地區ヲ有シ歩々ノ防禦ニ適シ其家屋戰ハ頑強ノ性質ヲ帶フ  
ルモ森林内ニ於ケル地障ハ甚々稀有ニシテ僅ニ水流、林空(牧草地)又ハ障碍物(鹿柴鐵條網等)ヲ設ケタ  
ル林道ノミニシテ複廊ハ唯大森林ニ於テノミ之ヲ得ヘシ(森林監視家屋農圃狩獵邸等)

○村落ハ森林ニ比シ通視シ容易ニシテ方向ヲ失スルコト少ナキモ軍隊ノ運動ハ概チ街道ニ由ラ  
サレハ能ハサルモ森林ハ其樹木及下叢ノ狀況ニ依リ運動ヲ許ス程度ヲ異ニス

○森林ノ縁端ニ向ツテスル砲彈ノ効力ハ村端ニ於ケルヨリモ大ナリ是森林ノ縁端ハ分明ニ見ル



ヲ得ヘク又摧折セル樹木ノ爲ニ射撃ノ威力ヲ加フレハナリ(R書)然レトモ村落内部ニ對スル敵砲ノ威力ハ守兵ヲシテ擾亂スルニ至ラシム

○村落ハ森林ニ比スレハ韌強ナル防禦ニ利ヲ呈ス森林内部ノ戦闘ハ一勝一敗ノ劇シキ波動ノ性質ヲ有ス

クンツ氏曰ク森林ハ一時ノ防禦ニ適スルコト常ニ村落ニ優レリトス是森林ニ在リテハ概ネ一中隊ノ正面ニ等シキ展望ヲ得サルノ地ナク且濶大ノ正面ヲ以テ退却シ得レハナリ

故ニ森林戰ニ於テハ專ラ周縁ヲ固守スルヲ以テ防禦ノ主要ト爲スコト村落ノ之ヲ要スルヨリモ甚シトス

○戰鬥不利ナル時許多ノ捕虜ヲ生スルハ村落ノ戰鬥ニ於テ多シトス  
(巳)本邦及清國ニ於ケル村落ノ特性

(一)本邦村落ノ特性  
歐洲各國ノ家屋ハ甍壁若ハ石造ニシテ我邦ノ家屋ハ木造ナリ其屋壁ハ土製ニシテ薄ク戸扉ハ紙

若ハ薄キ板ヨリ成リ屋蓋ハ多ク草葺ニシテ瓦ヨリ成ルモノト相半ハス故ニ小銃彈ニ對シ抵抗力ナク村落ノ形狀ハ概テ道路ニ沿フテ延長シ其縱方面ハ常ニ薄弱ナリトス又内部ニハ防禦ノ中樞タルヘキ堅牢ノ家屋ナク交通最モ不便ニシテ其周縁ニハ溝濠アルモノ少ナク多クハ薄弱ナル籬芭竹柵ノ存スルニ過キス故ニ我邦ノ村落ハ歐洲各國ノ村落ニ比シ戰術上全ク特種ノ性質ヲ有ス歐洲兵學者ノ村落戰ノ爲ニ立ツル原則ヲ見ルニ村落ハ防禦陣地トシテ堅固ニ又其内縁ハ敵ノ侵入ヲ妨止スル爲ニ編成スルコト容易ナリト論セリ又曰ク敵ノ銃丸ヲ遮蔽シ我射撃ヲシテ精密ナラシムト又曰ク村落ニハ複廊ヲ編成シ得ヘシト又曰ク村落ノ戰鬥ハ韌強ナリト然ルニ我國ノ村落ハ前已ニ述ヘタル如ク以上ノ原則ト全ク正反對ノ結果ヲ見ル唯其原則ヲ同クスルモノハ住民地ニ據リテ軍隊ヲ掩蔽シ得ルノ利ト敵ノ砲彈ニ對シテ慘害ヲ受クルノ不利アルトノミ然レトモ彼ノ害トスル所ハ砲彈ノ爲甍石瓦壁ノ破壊ヨリ起ルモノニシテ我ノ害トスル所ハ草葺ノ村落ニ在リシハ火災ノ危險是ナリ故ニ我國ノ住民地ハ戰鬥ノ資料ヲ呈セスト云フモ誣言ニアラサルナリ然ラハ即チ村落ハ戰鬥中全ク無用ノ長物ト爲ルカ否抑、戰爭中住民地ナキ時ハ軍隊ハ一日モ生



活スルコト能ハス故ニ戰爭中最大必要ノ物件ナリ之ニ依リ時トシテ之ヲ掩護セサルヘカラス掩護セントスルニハ之ニ據リテ戰ハサルヲ得サルコトアルヘク又已ニ述ヘタルカ如ク住民地ハ軍隊ヲ掩護スル爲ニ大ナル便宜ヲ與フルモノナリ

以上ノ理由ニ依リ我邦ノ村落戰ニ關シテハ左ノ如ク論定スルヲ得ヘシ

- 一、村落ハ戰鬪上掩護物トシテ使用セラルルヲ得
- 二、村落ヲ防禦陣地トシテ用ユルハ不利ナリ又防禦線中ニ在ル村落ハ其弱點ナリ
- 三、村落ヲ掩護シ或ハ戰線ノ據點トシテ用ヒントスル時ハ之ヨリ離隔シテ陣地ヲ占領シ住民地自ラ單ニ援隊、豫備隊等ヲ掩蔽スルノ用ニ供スルヲ可トス
- 四、村落ノ近傍ニ於テ戰鬪スル時ハ防火ノ準備ヲ怠ルヘカラス
- 五、砲兵ハ特ニ村落外ニ陣地ヲ占領スヘシ

#### (二)清國村落ノ特性

一、清國村落ハ繞ラスニ磚石ノ圍壁ヲ以テシ各戸又概ネ磚石若ハ土壁ナルヲ以テ防禦ノ効力

大ナリ故ニ之ヲ攻撃スルニハ爲シ得レハ野戰榴彈砲若ハ臼砲ヲ使用スルヲ得策トス(階行社記事所載野戰砲兵監部投稿「日露戰役ニ由リテ得タル戰術上ノ成果」中「沙河會戰ニ由リテ得タル戰術上ノ成果」)

二、敵ハ好ンテ其砲彈ヲ村落内及其周圍ニ送り且其砲彈ハ火災ヲ起シ易シ故ニ村落内ニ位置スル時ハ頗ル不快ノ感ヲ起シ志氣上ニ影響スルコト尠カラス然レトモ其被ムル損害ハ案外少ナシ本戰鬪ニ於テ蘇麻堡五家子ノ如キハ實ニ砲彈ノ集中點タリシモ砲創ハ比較的少ナシ是沈着シテ射方向ニ注意シ巧ニ家屋若ハ土壁ヲ利用スル時ハ其害ヲ避クルコトヲ得レハナリ

本會戰ハ半ハ遭遇戰ノ性質ヲ帶ヒタリ敵ハ圍壁ニ據リテ防禦シタリト雖敢テ大ナル加工ヲ爲セルニアラス此敵ニ對セル我砲彈ハ良好ノ位置ニ落下スルモ敵ハ毫モ顧ミス我某師團ニ對スル其砲兵ノ如キハ寧ロ我砲火ヲ度外視シテ隨意ニ我歩兵ヲ猛射シタリ之ニ反シ頭泡西南圍中ニ曝露シテ布陣シタル敵ノ砲兵ハ我師團砲兵ノ二三彈ヲ受クル直



ニ其位置ヲ撤シタリ此ニ由テ是ヲ觀レハ頑強ノ防禦ニ富メル露軍ニ對シテハ特ニ曲射砲ノ必要ヲ感セスンハアラス而シテ其砲彈ハ榴彈ナルヲ要ス若夫レ榴霰彈ヲ發射スルノ止ヲ得サル時ハ著發トスルカ若ハ破裂高ヲ低クシ五米以下トスルヲ要ス而シテ從來兵器ノ改良ヲ計ルニ方リテハ單ニ形而下ノ効力ヲ求ムルノミナラス無形上ニ及ホス感應ニ重キヲ置クコト極メテ必要ナリト信ス(同上)

(三)本邦ノ村落ト歐洲ノ村落トノ差異

大ニ其結構形狀ヲ異ニスルヲ以テ其戰鬪ニ於テモ多少其趣ヲ異ニス抑々歐洲ノ家屋ハ概ネ石造又ハ磚造ニシテ其家屋集團シテ村落ヲ爲シ其地ハ大抵繞ラスニ堅牢ナル牆壁ヲ以テシ壕渠亦之ニ沿ヒ宛モ一大堅城ノ如シ之ニ反シ本邦ノ家屋ハ土藏ヲ除クノ外ハ通常木造ニシテ其屋蓋ハ葺クニ茅藁或ハ板ヲ以テシ爲ニ燃燒シ易ク其稍々堅牢ナルモノト雖多クハ瓦ヲ以テシ却ツテ砲彈ノ爲飛散シ偶々以テ守者ヲ害スルニ過キス

本邦住民地中宿驛ノ如キハ家屋街道ニ沿フテ櫛比延長シ然ラサレハ地形ノ起伏ニ從ヒ甚タ不

規則ニ排列スルヲ常トス又村縁ハ堤壁ノ如キ強硬ナル地物頗ル稀ニシテ多クハ各家ニ屬スル籬笆竹柵等斷續シアリ交通最モ不便殊ニ家屋ハ狹小粗弱ニシテ殆ト防禦力ナク且却ツテ火災ヲ被ルノ害アリ

(庚)本邦森林ノ特性

我邦ノ森林ハ多クハ天然ニ蕃殖シタルモノニシテ人工ノ培養ニ成ルモノ稀ナリ故ニ其形狀不規則ニシテ歐洲兵學者ノ所謂凸角凹角ヲ整然成形スル者ナシ然レトモ近來森林ノ培養伐採ノ忽諸ニ附スヘカラサルヲ知リ林區署ヲ設ケテ之ヲ監督スルニ至ル」聞ク所ニ依レハ獨乙國杯ノ森林ハ其内部ノ地面實ニ清淨ニシテ一點ノ塵ヲ見サルモノ多シト然ルニ我邦ノ森林ヲ見ヨ已ニ森林アレハ其地面ハ叢棘繁茂シテ裸地ナルモノ稀ナリ是土地ノ膏沃ナルヲ證シ且又一方ニハ人工ニ成ラサルヲ知ルニ足ル夫レ斯ノ如クナルヲ以テ我邦ノ森林ニシテ道路外ニ軍隊ノ通過ヲ許スモノハ甚タ稀ニシテ其多クハ僅ニ單獨兵ノ通過シ得ルニ過キス森林ノ性質夫レ斯ノ如シ故ニ本邦ノ森林ハ前已ニ述ヘタル森林ノ利益ハ大ニ減少スルモ戰術上ノ關係狀態ニ至リテハ歐洲ノ村



落ト日本ノ村落トノ大差ノ如キヲ見ス故ニ森林戰ニ於ケル原則ハ我邦ニ於テモ一般ニ適用セラ  
ルルヲ得ヘシ(基本戰術講授錄轉載)

夫レ地理、氣候、風俗等ノ戰術上ニ及ホス影響ハ決シテ尠ナラサルナリ局地戰ノ研究ニ於テ  
モ亦然リ例令ハ村落戰及森林戰ノ研究ニ於テ一般戰鬪ノ原則ニ變更ヲ來スヘキモノハ其素質如  
何ニ關スルコト前已ニ述ヘタリ故ニ讀者之カ應用ニ方リテハ先ツ對敵國ノ住民地及森林ノ素質  
如何ヲ知ルヲ要ス然リ而シテ以下述フル所ノモノハ歐洲ニ於ケル住民地及森林ノ素質ヲ標準ト  
爲セシモノナルコトヲ記憶スヘシ

### 第二節 村落ノ具備スヘキ要件

村落ノ具備スヘキ要件左ノ如シ(メツケル氏著基本戰術)

一、周縁ハ連續セル障礙物ヲ有スルカ若ハ少ナクトモ良好ナル掩蔽物ヲ設クルニ便ニ且良好

ナル射界ヲ有スルヲ要ス

二、内部ハ交通ニ便ナル道路網ヲ有シ且内部豫備隊ヲ配置スルニ便ナル道路ノ輻湊點アルヲ  
要ス又村落ノ外方ニ對シ交通路ヲ容易ニ設ケ得ルノミナラス地障及複廓(第二章守者ノ部ニ此解アリ)ヲ  
構成スル爲堅牢ナル家屋ヲ有シ且前後ニ重疊シタル獨立ノ集團ヲ成形スルヲ要ス其家屋  
ノ草葺又ハ板葺ナルモノハ火災ヲ生起シ易シ

## 第二章 守者(附圖第一乃至第三對照)

### 第一節 周縁、複廓、地障

○掩蔽物(森林、住民地ヲ稱ス)ノ周縁ヲ本然ノ防禦障地ト爲シ長ク抵抗ヲ持續セントスル時ハ之ヲ失ヒタ  
ル後モ更ニ内部ニ於テ復ヒ抵抗ヲ爲シ得ル如ク防禦設備ヲ爲スヘキモノトス

○村落及森林ノ内部ニ於ケル後方ノ障地ヲ分チテ二種ト爲ス複廓(又核點)及地障(又第二防禦



線)是ナリ

○複廓トハ村落又ハ森林内部ニ於ケル獨立ノ防禦點(農圃、寺院、墓地、集團家屋等ヲ謂フ殊ニ森林ノ如キニ於テ適當ナル家屋ナキトキハ特ニ土製堡壘ヲ構築スルコト)ニシテ爾餘ノ諸部總テ敵手ニ落ツルモ尙能ク獨立シテ防守ヲ持續シ得ルモノヲ謂フ

明治四十一年改訂 士官學校築城學教程ニ曰ク「森林内道路交叉點附近ニ堅固ナル家屋存在スル時ハ之ヲ編成シテ複廓ト爲シ其前方ニ射場ヲ設備ス若適當ノ家屋存在セサル時ハ特ニ簡單ナル框舎ヲ構造スルコトアリ」ト人往々複廓ハ住民地ニ限ルモノノ如ク思惟スル者アリ誤解ナキヲ要ス(獨、築、草、七十四)複廓ハ村内ニ侵入シタル敵ノ前進ヲ繼續スルヲ妨ケ而シテ村落ノ挽回ヲ容易ナラシムヘキモノトス複廓ニハ開豁ナル場所又ハ街道ノ交叉點ニ於ケル堅牢ナル建物或ハ農圃ヲ選定シテ十分ノ工事ヲ施スヘシ

○地障ハ複廓ト異ナリ即チ村落又ハ森林ノ前端ノ後方ニシテ其内部ニ設クル第二ノ防禦線(住民在リテハ防禦正面ニ殆ト平行シ村落ヲ横貫スル所ノ廣キ道路(空地)河川等)ニシテ周縁ニ位置スル守兵退却シ森林ニ在リテハ林空(窪地)之ヲ横貫スル河川等其他多少射界ヲ有スル地區)ニシテ村落ノ前線ノ設備ニ於ケルモノト村落又ハ森林ノ前部既ニ略取セラルルモ尙其後部ヲ防守シ得ヘキ新陣地ヲ謂フ

(日、築、草、百十一)防禦正面ト平行シテ村落ヲ貫通スル廣キ道理又ハ水流等アリテ之ヲ占領スルニ適スル時ハ内部防禦線ヲ設クルコトヲ得ヘシ其設備ハ前線ト連絡スヘキ道路ヲ閉塞スルコトナク要スレハ更ニ數多ノ交通路ヲ開設ス其他ハ概ネ村落ノ前線ノ設備ニ於ケルモノト異ナラス

○複廓ト地障トハ斯ル差異アルヲ以テ其用途、價值亦異ナリ唯其等シキハ兩者共ニ内部ニ於ケル抵抗ヲ長カラシムルニ在ルノミ然レトモ其戰鬪法ハ全ク相反ス

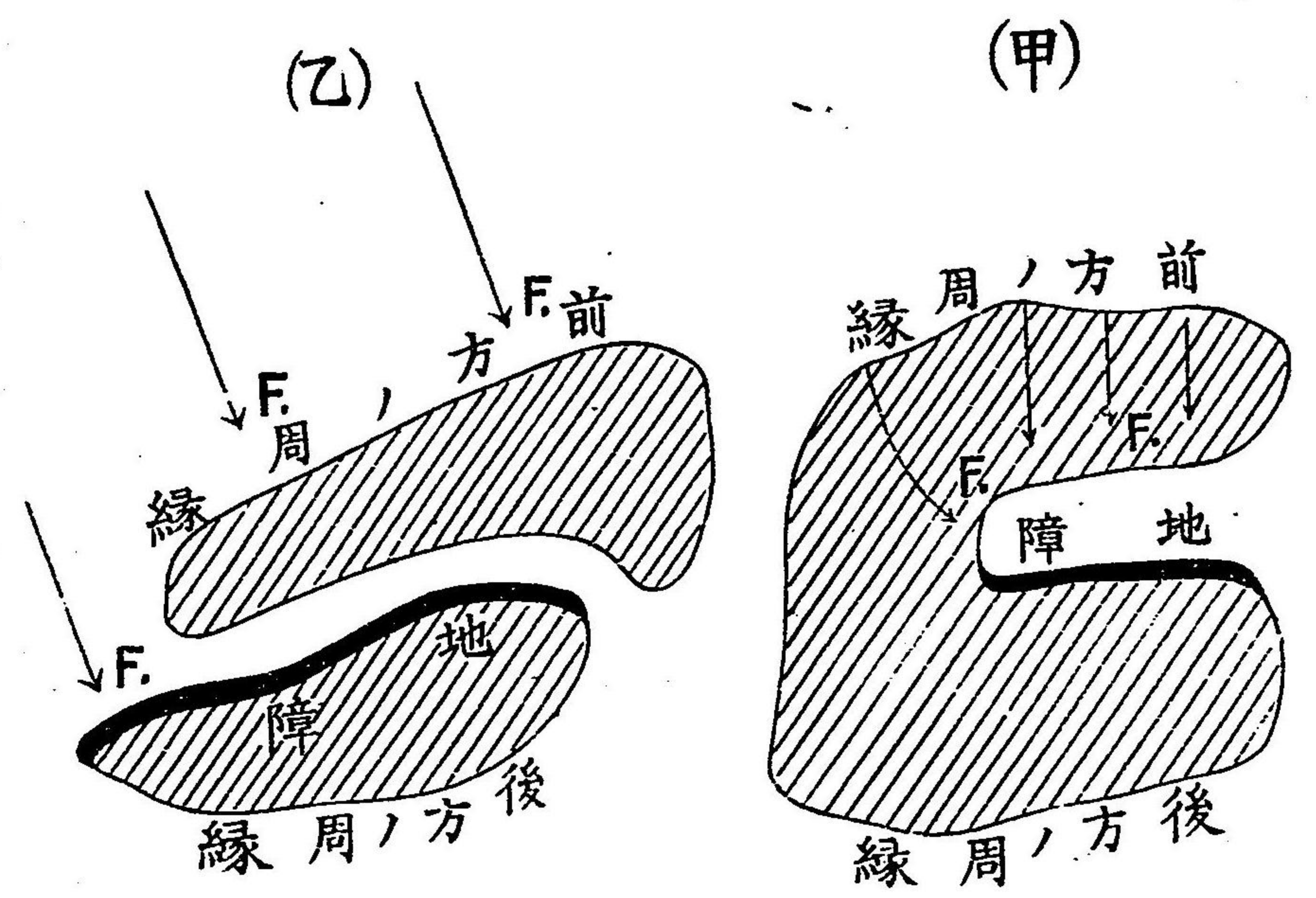
○複廓ノ價值及用途 複廓ハ決戰ノ目的ニ適ス即チ住民地又ハ森林ノ他ノ部位皆既ニ敵手ニ落ツルモ守者尙其中ニ立脚地ヲ占メ以テ敵ノ我退却部隊ニ追躡スルヲ拒止シ之ヲ擾亂シ且繫留スルニ在リ殊ニ敵ヲシテ隊伍ヲ整頓シ其部署ヲ立ツルノ暇ナカラシメ以テ村落又ハ森林ノ回復ヲ容易ナラシムルヲ以テ目的トス故ニ複廓ノ守兵ハ村落又ハ森林ノ核心ヲ爲シ豫備隊ノ來援迄敵ヲ支持シ後共ニ攻勢ニ轉スルモノニシテ早晚決戰ヲ爲スヲ以テ立前ト爲スモノナリ

○地障ノ價值、用途 地障ハ概チ戰鬪ヲ持續スルノ目的ニ適ス即チ唯時間ノ猶豫ヲ得テ前線守



兵ノ退却ヲ掩護スルヲ主眼トス故ニ其目的專守ニ在リ然レトモ地障モ亦複廓ト同一目的ノ爲ニ  
占領セラルコトアルヘキモ本來防守ヲ主トスルモノナルヲ以テ其戰鬥モ亦持久的ナルヲ常トス  
○複廓ニ具備スヘキ性能左ノ如シ

- 一、其周圍開豁シ障礙物ヲ設置シ諸方面ニ對シ齊一ノ防禦力ヲ有スルヲ要ス
- 二、其位置ハ前線ノ守兵ノ退却ニ方リ其側方ヲ通過スルニ支障ナキヲ要ス之ニ反シ此退却ス  
ル守兵ト共ニ席捲セラルルコトアルヘカラス
- 三、内部殊ニ諸道路ヲ制射シ得ルヲ要ス
- 四、複廓ハ敵ニ隱蔽シアルヲ要ス若攻者ヲシテ外方ヨリ既ニ複廓タルコトヲ知ラシムル時ハ  
不利ナリ何トナレハ敵ノ砲火ヲ被リテ其破壊スル所ト爲リ速ニ其用ヲ失スルニ至レハナ  
リ
- 五、其位置前線ニ接近シ之ト同時ニ攻撃セラルルカ如キハ不利ナリ又此複廓ノ爲攻者ノ追撃  
ヲ防遏シ以テ村落又ハ森林奪還ニ便ナルヲ要ス



○地障ニ具備スヘキ性能左ノ如シ

- 一、地障ハ防禦正面ニ殆ト平行シ且防守スヘキ  
村落又ハ森林ノ一側縁ヨリ他側縁ニ亘リ横  
貫スルヲ要ス然ラサレハ攻者ハ其連續セル  
部位ヨリ容易ニ陰蔽接近シ得レハナリ(甲  
圖)
- 二、其一部ト雖前端ト同時ニ攻撃セラルルカ如  
キハ不可ナリ然ラサレハ第二防禦線タルノ  
價值ヲ失フ(乙圖)
- 三、良好ナル障礙(防禦線ト平行シタル  
細流、街路、塹壕等)ヲ有シ攻者  
ノ前進ニ方リ之ヲ守者ノ射撃下ニ抑留シ以  
テ其防禦力ヲ増加スルヲ要ス



四、前方ニ在ル守兵ノ退却ニ方リ其地ヲ通過スルニ安全ナルヲ要ス之カ爲數多ノ交通路ヲ開設スルヲ要スルコトアリ

## 第二節 防禦ノ部署

### (甲) 防禦線位置ノ決定

凡ソ防禦線ヲ選定スル第一ノ要旨ハ其前地ヲ射撃シ得ルノ自由ヲ有スルニ在リ其他一切ノ希望及技術的ニ關スルモノハ皆此要求ニ附屬スルモノナリ然ルニ支撐點ヨリスル射撃ハ近距離ニ於テ始メテ其効力大ナルモノナルヲ以テ射界ハ必スシモ至遠ノ距離ニ至ル迄敞開スルヲ要セスト元來戰鬪ノ目的ニ依リ射程ノ遠近ヲ要求スルモノナリ然ルニ此說ノ場合即近距離ノ射界ヲ要求スルハ決戦ヲ期スル場合ナリ持久戰ニ於テハ寧ロ距離以上ノ射程ヲ要スルモノナルヲ以テ此說ハ首肯シ難シ

○防禦線 位置ノ選定ニハ緣端ヨリ前進、緣端内ニ後退及緣端ノ三種アリ

防禦線ヲ森林又ハ村落ノ緣端ニ置クヘキカ緣端前ナルヘキカ或ハ緣端内ニ退クヘキヤノ問題ハ支撐點(支撐點トシタル村落又ハ森林ヲ稱ス以下同シ)ノ要求スル射界ノ如何ヲ知レハ容易ニ答解シ得ヘシ即チ第二ノ場合ニ在リテハ防禦陣地ハ村落又ハ森林前ニ設クヘシ然ルトキハ村落又ハ森林ハ唯豫備隊ノ掩蔽物ト爲ル而シテ敵ノ砲兵射撃ハ概ネ展望シ得ヘキ支撐點ニ向フカ故ニ其散兵壕内ニ在ル守者ハ稀ニ近ク落着スル敵彈ノ害ヲ被ムルノミ然リ而シテ散兵壕ノ位置建築物ヨリ五十米以上ヲ離ルルトキハ右片等飛散スルモ被害ノ虞ナシ

(一) 緣端ヨリ前進及緣端ノ占領

森林甚タ廣大ニシテ林内ノ運動ヲ許ササルトキハ森林ノ前方ニ出テ陣地ヲ占領シ森林ハ唯援隊及豫備隊ヲ掩蔽スルノ用ニ供スヘシ何トナレハ若單ニ廣濶ナル林縁ニ據リ防禦セントスルトキハ左ノ如キ不利ヲ侵ササルヘカラサレハナリ

一、砲兵ヲ防禦第一線ニ接シテ配置スヘカラストノ原則ヲ破ラサルヲ得ス故ニ砲兵ハ防禦



線上ニ在ル歩兵ト共ニ敵ノ歩砲兵火ノ慘害ヲ被リ勢ヒ其位置ヲ保ツヘカラサルニ至ル  
 二、斯ノ如ク配置セラレタル砲兵ハ一度其位置ヲ失ブルトキハ最早ヤ更ニ他ノ陣地ヲ占領  
 スルコト能ハス果シテ然ラハ林縁與奪ノ最終期ニ於テハ全ク砲兵ノ用ヲ失フニ至ル  
 基本戰術講授錄ニ曰ク「軍隊ノ指揮ハ決シテ斯ノ如キ戰鬪ノ不利ヲ犯スヘカラサルモノナリ  
 故ニ林縁ヲ以テ防禦ノ主線ト爲シ林縁ヲ以テ攻撃ノ主眼ト爲ス如キ戰鬪ハ地形及時機已ムヲ  
 得サルトキニ於テ實施セララルルヲ要ス」ト夫レ然リ然リト雖狀況已ムヲ得サルトキハ村落ノ  
 縁端及林縁ヲ占領スルコトアルハ勿論ナリトス

(一) 縁端内ニ後退

縁端内ニ後退シテ防禦線ヲ選定シ得ルハ疎林ニ限ル之カ爲ニハ左ノ事項ニ據ルヘシ  
 (同、築、草、百〇一) 敵彈ノ威力ニ對シテ森林ハ深ク其内部ニ在ル部隊ニノミ掩護ヲ與フル  
 モノナレハ其前縁ニハ必ス散兵壕及掩壕ヲ缺クヘカラス然レトモ此等ハ林縁ヨリモ寧ロ其  
 前方ニ設クルヲ以テ適當ナリトス若疎林ナルトキハ林縁ヨリ若干後退シテ占領スルモ亦可

ナルコトアリ

(歩、操、百〇四ノ一) 森林占領ノ爲ニハ識別シ易キ林縁ヲ避ケ樹木ノ爲射撃ヲ妨害セラレサ  
 ルヲ度トシ林縁ノ後方ニ火線ヲ選フヲ可トス疎散ナル森林ニ於テハ特ニ然リ若濃密ナルト  
 キハ火線ヲ前方ニ設ケ森林ハ唯後方部隊ヲ蔭蔽スルニ用フルヲ利トスルコトアリ

村落ニ就テハ左ノ事項ニ依ルヘシ蓋シ其威力カ縁端外ニ及ハサルトキハ純然タル内部ノ戰鬪  
 ノ性質ヲ帶フルニ至ルヘシ

(日、築、草、百十二) 若兵力寡弱ニシテ常ニ奇襲ヲ受クル虞アルカ又ハ長時間ノ抵抗ヲ要ス  
 ルトキハ村縁ニ於テ防禦スルヨリハ堅牢ナル家屋ニ退嬰スルヲ可トスルコトアリ此際ニハ  
 縦ヒ全ク包圍セララルルモ尙戰鬪ヲ繼續シ得ル如ク爲シ得ル限リ家屋ノ防禦力ヲ増加スルヲ  
 要ス

(乙) 防禦線内ニ在ラサル森林(村落)占領ノ可否

○森林(村落)戰鬪線ノ前方ニ在ルトキハ守者將來攻勢前進ヲ豫期スルトキノ外ハ之ヲ占領スヘ



カラス何トナレハ若之ヲ占領セント欲セハ其全部ヲ領有ト爲シ堅固ニ之ヲ防守スルニアラサレハ彼ノ前進哨ノ不利ヲ招クニ至ルヘケレハナリ然ルニ若之ヲ占領セスシテ放棄スルトキハ攻者ハ之ヲ利用シ其運動ヲ秘匿シ得ルカ故ニ森林(村落)ハ變シテ守者ノ危険物ト爲ルヘシ故ニ斯ノ如ク戦闘線前ニ在ル森林ヲ占領シ能ハサル狀況ニ在リテハ防禦線ヲ變換スルカ或ハ已ムヲ得サレハ配備ニ依リテ其不利ヲ償ハサルヘカラス然レトモ森林(村落)ヲ前方ニ控エタル防禦線ハ少クモ砲兵ノ射距離丈ケ後退離隔セサレハ良好ナル射界ヲ得ルコト能ハサルヘシ故ニ狀況上寧ロ此森林(村落)ノ線ニ防禦スルノ得策ナルコトアルヘシ

(日、築、草、八ノ二) 正面殊ニ翼ノ前面ニ近接セル森林其他ノ蔭蔽地ハ防禦ニ不利ナリ

○森林(村落)防禦線上或ハ其後方ニ在ルトキハ常ニ之ヲ領有スルヲ可トス是レ戦闘ノ支撐點ト爲リ或ハ守者ノ運動ヲ蔭蔽スルノ利アレハナリ

R 書曰ク陣地ノ背後ニ在ル村落ハ後衛頑固ニ之ヲ防守シ以テ本隊ノ退却ヲ容易ナラシムルヲ得ヘシ (Geisberg城館) 而シテ其最モ適當ナルモノハ濶大且稀疎ナル森林トス何トナレハ退

却部隊ハ之ニ掩蔽セラレ其跡ヲ没スルニ便ナレハナリ唯其本陣地ハ若干相離隔シアルヲ要ス是攻者本陣地ヲ追撃スルト共ニ同時ニ之ヲ攻撃シ能ハサレハナリ Waterlooノ戦闘若英軍ノ不利ニ歸セハ Soigneノ森林ハ此用ニ供セラルヘキモノナリ Wellingtonハ之ヲ陣地ノ要害ト名ツク

大戦學理ニ曰ク本論(自註。森林防禦論)ニ就テハ先ツ樹木繁茂セル大森林ハ通過困難ナルト培養セシ大森林ニハ常ニ多數ノ道路アルトノ二事ヲ想フヘシ「防禦線ヲ選定スルニハ此二類ノ森林ヲ避クヘク然ラサレハ之ヲ後方ニ控ルコトニ大ニ注意スルヲ要ス元來守者ハ普通攻者ヨリモ薄弱ナルト防禦ノ利ニ據ルニハ攻者ノ企圖ヲ明察セシ後ニアラスンハ其行動ヲ開始スヘカラサルトノ二條件ニ從フヘキモノトス故ニ守者最モ廣濶ナル射界ヲ有スルヲ要ス然ルニ森林地ヲ前ニシテ防禦正面ヲ取ルトキハ是レ守者ハ恰モ布片ヲ以テ眼ヲ掩ヒ以テ攻者ノ前進ヲ容易ナラシムルニ等シ又守者森林中ニ位置セハ攻者モ亦守者ト同シク暗黒中ニ居ルカ如キモ此暗黒ハ攻者ニ於ケル不利ヨリモ寧ロ守者ニ於テ甚シトス若又森林ヲ背後ニシテ防禦線ヲ選定スルハ



森林ハ防禦線ノ後方ノ事ヲ敵ニ隱蔽シ所要ノ際退却運動ヲ掩護シ且之カ實行ヲ容易ナラシム  
以上説ク所ハ平地ニ在ル森林ニアラスンハ適當ナラス山地ノ森林ニ在リテハ山岳ノ影響著シ  
ク守者ハ之カ爲山地防禦ニ於ケル戰略及戰術上ノ處置ヲ取ラサルヲ得サルニ至ルヘキモノナ  
リ。

○防禦線ノ側面ニ控ユル森林(村落)ハ往々側面ノ良好ナル支撐點ト爲ル者ナレトモ之ヲ占領ス  
ルコト能ハサルトキハ却ツテ大ニ危險物ト爲ルモノナリ是敵ハ之ニ遮蔽シテ我背後ニ進出シ得  
レハナリ故ニ村落ハ通常之ヲ占領スルヲ要シ森林ハ林内ノ立樹及地質ノ爲軍隊ノ運動ヲ妨害セ  
サル限りハ之ヲ占領スルヲ可トス

R書曰ク「林内ノ運動ヲ妨害スルトキハ寧ロ林端ヨリ若干離隔シテ我翼ヲ置キ林内ハ多クノ  
遊動兵ヲ位置セシメ敵若林内ニ爲スコトアラントセハ速ニ其企圖ニ應スル如ク爲スヲ可トス  
然レトモ我占領セサル森林ニシテ防禦線ノ近傍ニ在ルトキハ敵ノ部署及運動ヲ隱蔽シ易キモ  
ノニシテ又我防禦線モ若干之ニ掣肘セラルルノ害アリ」ト

又曰ク「往時ハ林内ノ立樹ヲ伐倒スルトキハ好障礙ト爲リ之ニ外翼ヲ依托シ得ヘシト信セン  
モ之カ爲ニ失敗セシ例アリ」ト

(例)Reichenbach(千七百五十七年)ニ於テ墮軍其左翼ヲ Joschessen 森林及該林ト Fran-  
genhat ノ間ニ有スル所ノ二小林ニ依托セリ然レトモ森林皆伐倒セラレ且林内ハ寡少ノ  
兵力ヲ以テ占領スルノミナリシカ此二小林ハ普軍ノ爲ニ攻撃セラレ終ニ其占領ニ歸セリ  
其他 Jagan ノ例ニ徴シテモ又知ルヘシ

又曰ク「林内濕地ニシテ敵ノ密集部隊又ハ火炮ヲ搬送シテ進入スルコト能ハサルトキハ之ニ  
一翼ヲ依托スルモ可ナリ然レトモ事實ヲ誤ル(自註。通過シ得タルモノヲ通  
過シ得シト認定スルヲ云フ)コトアルヘカラス」ト

(例)千八百〇七年普軍誤テ Kongsberg, Tisite 間ノ森林ヲ以テ通過スヘカラスト爲シ佛軍  
ハ必ス大道ヲ前進シ來ルモノト思惟セシモ豈ニ測ランヤ佛軍ハ之ヲ通過シ普軍ノ兩側面  
ニ出テシヲ以テ普軍惶遽退却セリ

(丙)地形偵察、防禦設備及其擔任



○防禦上森林ノ具備スヘキ要件左ノ如シ

高起シタル位置

廣濶ナル射界

遠距離ノ展望

適當ニ屈折セル林縁是凹部ニハ僅少ノ兵員ヲ配布シテ足ルカ或ハ之ヲ配布セサルモ可ナルヘク從ツテ兵員ノ配布各所皆均一ナルヲ要セサルノ利アリ縁端ニ在ル立樹ハ多少密接シアルヲ可トス内部ノ立樹疎散ニシテ運動容易ナルヲ要ス  
守者ノ小銃射程外ニ突出セル凸角部ノアラサルコト  
森林内ニ於テ正面ト平行及直角ナル道路アリテ且其道路外ノ通過容易ナルトキハ交通ニ便ナリ

林内ニ在ル空部ハ正面ト平行シ林縁ノ方向ハ敵ノ攻撃方向ニ直角ナルヘキコト

○村落防禦力ノ判斷上着眼スヘキ要點左ノ如シ

一、地上ニ於ケル村落ノ位置例ヘハ高起スル位置ハ防禦ニ利アリ低地ニ在ル村落ハ全ク防禦力ヲ失ス

二、村落ノ形狀例ヘハ村落ノ長方面敵ニ對スルトキハ防禦ニ利アリ短方面敵ニ對スルトキハ包圍セララルルノ害アリ

三、村落周圍ノ結構例ヘハ生籬、墻壁ノ有無、凸角及凹角ノ形狀ハ大ニ防禦力ニ關ス

四、村落出口ノ數、位置及廣狹ハ亦防禦力ニ關ス

五、本道路ノ方向及其數

六、家屋ノ構造及高キ家屋ノ有無、但シ高キ家屋ハ監視ニ利アリ

七、其他水流ノ如キ障礙物前面ニ横ハルトキハ專守防禦或ハ攻勢防禦ニ於テ其利害ヲ異ニス

○直接ニ村落(森林)ヲ防禦スルヲ要スルトキハ先ツ之ヲ偵察ヲ爲スコト極メテ緊要ナリ而シテ偵察ノ要件概ネ左ノ如シ

一、森林(村落)ノ大小、廣狹及形狀



其長方面カ敵ニ對スルトキハ守者ニ利アルモ若短方面カ敵ニ對スルトキハ包圍ヲ蒙ムルノ不利アリ

隆起セル位置ニ在ルトキハ守者ニ利アリ

二、前地 防禦陣地ニ於ケル前地ニ等シ

三、緣端 其形狀直線ナルヤ折線ナルヤ凹角又ハ凸角ノ有無、堤、籬芭、壕、墻壁、柵等ノ有無強度、出口ノ廣狹、森林ニ在リテハ前方ニ對スル通視ノ狀態等

四、内部 緣端ニ平行シ或ハ之ニ直交セル道路ノ有無、地障ニ適スル水流又ハ空地ノ有無、複廓ニ構成スヘキ家屋、其内部ノ交通ノ難易

村落ニ在リテハ高キ家屋ハ監視ニ便ナリ

五、側地 特ニ外部豫備隊ノ位置ニ顧慮スルノ外防禦陣地ニ同シ

六、後地 防禦陣地ニ等シ

前掲ノ外砲兵陣地ノ選定ハ第一ニ顧慮スルヲ要ス又一般ノ場合ニ於ケルト同様技術上ノ偵察ハ

特科將校ヲシテ偵察セシムルモノトス

○防禦ノ目的唯時間ノ餘裕ヲ得ントスルカ或ハ頑強ニ之ヲ防守スルヲ要スル爲ニ從ヒ防禦設備ノ要領ヲ異ニス即チ乙ニ在リテハ村落(森林)周縁ニ於ケル戰鬥不利ナルトキハ其内部ニ於テモ尙激烈ナル戰鬥ヲ持續シテ好機ニ乘シ戰勢ヲ回復シ得ル如クスルヲ要ス從ツテ偵察ノ要領モ亦此目的ニ依リ前掲ノ要件ヲ取捨選定シテ施行スヘキモノトス

○戰鬥前施行スヘキ防禦設備ハ内部交通路ノ設置、前線ノ設備内部防禦設備、即チ地障及複廓ノ構成トス而シテ地障及複廓ノ構成ハ就中敵砲火ノ威力ノ及否ヲ顧慮シテ之カ計畫ヲ立テ以テ容易ニ外方ヨリ破壊セラル、コトナキヲ要ス(本書「防禦ニ於ケル諸兵種」用法(四)工兵ヲ見ルヘシ)

○敵砲兵ノ危害ヲ避クル爲村落及森林等ノ認識シ易キ緣端ニハ工事ヲ施スコトナク寧ロ之ヲ其前方ニ設クルヲ得策トスルコトアリ而シテ此村落、森林ハ豫備隊ノ掩護竝材料供給ノ資源ニ供セラレルモノトス(日、築、草十七ノ末)

○防禦地區ノ區劃及其防禦設備 村落ハ大隊及中隊ノ防禦地區ニ區劃シ(自註。元來防禦地區ハ大部隊ニ在リテハ大隊群ニ區劃)



スルヲ可トス是レ戰團指揮ノ關係上歩兵ノ戰術單位タル大隊ヲ一群トスルヲ有利トスレ  
 ハナリ然レトモ森林及村落ニ在リテハ指揮ノ關係上歩兵中隊ヲ分割スルコト多カルヘシ  
 各地區毎ニ之ニ適合スル  
 如ク防禦ノ設備ヲ爲スヲ要ス(中略)各地區ノ防禦設備モ亦通常其守備ニ任スル各部隊ノ自ラ施  
 行スヘキモノトス即チ第一線ノ部隊ハ前線ノ工事殊ニ各自ノ連絡及援隊ノ安全ニ關スル設備ニ  
 任シ豫備隊ハ村落内部ノ設備及内部防禦地區ノ準備ヲ擔任ス若支據點ノ設備ヲ施スヘキトキハ  
 其守備ニ充ツル部隊ヲシテ之ニ任セシムヘシ(日、築、草、百〇九)

(歩、操、百〇七ノ一)住民地ノ防禦ハ圍壁及家屋ノ景況ニ應シ各部隊ノ守備區域ヲ定メテ守備  
 セシメ縦ヒ敵兵其一區域ニ侵入スルモ他ニ波及セサル如ク設備スルヲ必要トス  
 (同、百〇七ノ二)住民地ニ在リテハ獨リ其周縁ヲ守備スルノミナラス内部ニ於テモ亦道路ヲ  
 阻絶シ堅固ナル家屋ヲ占領スル等ノ設備ヲ爲スヘシ又消火ノ準備ニ注意スヘシ  
 R書曰ク「林縁ハ地形ノ要不要ニ從ヒ之ヲ數區ニ區分シ其敵ノ最モ進撃ヲ受クヘキ地ハ之ヲ  
 最小區劃ニ分ツ各大隊區亦分ツテ二乃至四箇ノ中隊區ト爲ス其平等ニ占領シテ疎密ナキハ不  
 可ナリ最モ敵ノ進撃ノ衝ニ當ルノ地(凸角及敵兵蔽シテ近接シ得ル地點)及我射界少ナキ地ハ其縁端ノ占領之ニ準

シテ密ナルヘシ又斯ノ如キ敵ノ突入點ト爲ルヘキ部位ニハ援助ノ兵ヲシテ其背後ニ近ク戰備  
 ヲ整ヘテ占位セシムヘシ身ヲ攻者ノ地ニ投シ支據點ヲ點檢スレハ其殊ニ恐ルヘキ部位ハ容易  
 ニ知ルヲ得ヘシ各地區ノ境界ハ凹角其他敵兵進撃ノ衝ニ當ラサル地ヲ擇ヒテ決定スヘシ然ル  
 トキハ森林ノ出口ハ決シテ境界ト爲スヘカラス

メツケル氏曰ク防禦線ハ數箇ノ管區ニ區分セラレ一管區ハ歩兵一中隊ノ受持ト爲ス(中略)諸  
 中隊ハ分レテ火線ト援隊ト爲リ而シテ緊要ノ地點ニハ多クノ兵力ヲ配置シ然ラサルモノハ寡  
 少ノ兵員ヲ以テシ又ハ全ク占守スルコトナシ

○後方ニ在ル森林(村落)ハ將來ノ用途ヲ顧慮シ豫メ適當ニ交通路ヲ設ケ置クヲ要スルコトアリ  
 ○支據點ノ編成

支據點ノ編成ハ戰術上ノ狀況、支點ノ防禦ニ任スル兵力、全體ノ防禦ニ於テ支點ノ充スヘキ任務  
 固定火線タル諸堡守ノ兵ト機動部隊トニ兵力配當ノ比例及機動部隊ノ用法ニ從ヒテ變化ス例ヘ  
 ハ一村ヲハ一中隊ヲ以テ防禦セントスルトキハ一大隊ヲ以テ防禦セントスルトキト又短時間



ノ抵抗ヲ以テ足レリトスルトキハ頑強ニ抵抗セントスルトキトニ從ツテ防禦編成ノ法ヲ異ニス  
ヘキ事明ナリ又軍隊ノ用法及配賦ハ防禦指揮官ニ於テ各自ノ率アリ以テ防禦編成法ニ影響ス故  
ニ支點防禦ノ指揮官ハ成ルヘク自ラ其編成ヲ指揮スヘキモノトス  
工兵ヲ屬セラレタルトキハ工兵ハ交通路ノ開設、射界ノ清掃、野戰築城作業及副防禦ノ設置ニ  
任ス

成功ノ主因ハ機動ニ在リ故ニ交通路殊ニ逆襲或ハ回復攻撃ヲ便ナラシムル交通路ハ最モ緊要ナ  
リ此交通路ト成ルヘク遮蔽サレ及全戰鬪間常ニ利用シ得ヘキ様ニ設クヘシ特ニ村落ニ在リテハ  
内部ニ交通路ヲ設クルヲ以テ足ルコト能ハス蓋シ内部ノ交通路ハ火災或ハ屋ノ破壊ノ爲ニ遮斷  
サルルコトアルヲ以テナリ故ニ單ニ村落ノ側面ニ於テ交通路ヲ設ク之カ爲稍々大ナル集團ノ村  
落ニ在リテハ火線ト後方トノ連絡ヲ容易ナラシムルニ其側端ヲ強固ニ占領スルコト往々是レア  
リ然ルトキハ村落ノ集團ハ其兩側端ニ此ノ如クシテ設ケタル稜堡間ノ中堤ノ任務ヲ爲シ側防ヲ  
確實ニシ且要スレハ天然ノ障礙ニ更ニ人工ヲ加ヘテ強固ナラシメハ敵ハ殆ト其中堤ヲ抜クコ

ト能ハサルヘシ又村落ノ集團ヲハ後方ニ於テ運動スル所ノ豫備隊ノ掩體トシテ利用スルコトヲ  
得

射界ノ清掃ハ築城教範ノ示ス所ニ從フヘシ但シ射撃ヲ妨ケ又ハ敵ヲ掩護シ得ル諸障礙ヲ悉ク徹  
去スルコトハ概テ不可能ナリ樹木ノ爲展望ヲ妨クルコトアルモ之ヲ他ニ搬去シテ防禦編成ニ利  
用シ得ルカ如キ時ニアラサレハ伐倒スヘカラス若シ然ラズンハ地上ニ伐倒シタル樹木ハ立木ヨ  
リモ一層射撃ヲ妨害ス故ニ立木ノ下方ナル樹枝ヲ截除シテ足レリトスヘシ藁ノ堆積ハ通常撤去  
シ火ヲ點スヘカラス蓋シ燃燒時間甚タ長キヲ以テ敵ニ遠方ヨリ容易ニ認識サレ且風カ守者ノ方  
ニ吹クトキハ烟ノ爲非常ノ妨害ヲ爲スヲ以テナリ正面ト平行ナル牆壁及土堤ハ之ヲ顛倒シ及其  
崩壞物ヲ撤去シ或ハ之ヲ平均スヘシ正面ト直角ノ牆壁及土堤ハ保存シ時トシテ之ヲ利用スルコ  
トヲ得又射界ノ前方ノミナラス尙其脇側ヲモ清掃スヘシ是比隣ノ支撐點カ相互ニ掩護シ或ハ前  
方ノ支撐點ヲ後方ノ支點ヨリ有効ニ側防シ得ンカ爲ナリ

○牆壁ノ彈丸ニ對スル價值 牆壁ハ屢々掩體トシテ利用セラル今左ニ牆壁ノ價值ヲ述ヘントス



牆壁ハ小銃彈ニ對シテハ通常完全ナル掩體タリ蓋シ小銃彈ハ其厚約0.50吋以上ノ牆壁ニ侵徹シ能ハサレハナリ但シ土壁ニ在リテハ然ラス  
砲彈ノ彈子及破片ニ對シテハ土壁モ亦屈強ノ掩體タリ但シ管ニ着發射擊ノミ甚タ大ナル效果ヲ呈ス

今此ニ高サ1.70吋ノ壁アリ此高ハ最モ防者ニ好都合ナリ何トナレハ兵卒ノ身長ニ比シ銃眼射擊ヲ行フニ適スルヲ以テナリ野戰砲ノ垂直戰鬪公算躲避ハ2500吋ノ距離ニ於テ約300吋ナリ從ツテ完全ニ修正セル射擊ニ於テ發射彈ノ多クモ100吋ハ壁ニ命中セン然ルニ壁ノ長サ一米ヲ轉覆セシニハ二箇ノ霰發榴彈或ハ一箇半ノ強裝爆裂榴彈ヲ命中セシムルコトヲ要ス故ニ60吋長ノ一面ヲ射擊スル所ノ砲兵一中隊(60吋ハ通常歩兵一中隊射擊正面ノ最小限ナリ)ヲ以テ60吋ノ長サノ壁ヲ轉覆センニハ400發ノ榴霰彈或ハ300發ノ爆裂榴彈ヲ消費セサルヘカラス  
不完全ノ修正即チ殆ント公算躲避ニ等シキ偏差ヲ問ハサル射擊ニ在リテハ約300發ノ榴霰彈及375發ノ爆裂榴彈ヲ要ス

1500吋ノ射距離ニ於テ射擊スルトキニテモ300發餘ノ榴霰彈及250發餘ノ爆裂榴彈ヲ消費スヘキ事ヲ豫期セサルヘカラス

彈藥ノ消費此ノ如ク大ナルニ拘ハラス僅ニ一部分ノ破口ヲ開クニ過キスト考ヘサルヲ得ス是レ「野戰ニ於テ歩兵ノ爲ニ開クヘキ破口ハ攻撃正面ノ廣サヲ要スヘキニ三十米ノ廣サニテハ十分ナラス」トノラングロア將軍ノ言誠ニ宜ナリ又同將軍ノ說ノ如ク第一ノ障礙ヲ破壞スルモ更ニ第二ノ障礙ニ遭遇スルコト屢々是アルヘキ事ニ注意スヘシ

砲擊間ハ後方ニ僅ニ若干監視兵ヲノミ備ヘル所ノ稍々長キ壁ヲ破壞センニハ非常ノ彈數ヲ費ササルヘカラス若シ敵カ壁ヲ破壞セント欲セハ其歩兵カ友軍ノ砲火ヲ破ラントスル距離ヲ壁ニ逼迫セサル以前即チ壁ヨリ200吋乃至350吋ノ距離ニ達セサル時機ニ先ダチ壁ヲ破壞スルヲ要スヘシ其時機ニ至ラハ砲兵ハ射擊ヲ延伸セサルヲ得ス然ラハ砲彈ノ破片ノ危險ナル300吋ノ地帯ノ以後ニ在リテ成ルヘク掩體ノ後方ニ掩ハレアリシ守者ノ歩兵カ壁ヲ占領シ攻者ニ向ヒテ全ク決勝的射擊ヲ開クヘキハ管ニ其時機ニ在リ但シ急激ニ失スヘカラス此場合ニ暫時敵ヲ阻止スヘキ副防



禦ニ掩護セラレテ少シク働作ノ餘裕ヲ有スルヲ甚緊要ノ事トス  
 又殊更ニ敵ニ目撃サルル壁ノ全長ニ銃眼ヲ穿ツヘシ假令其一部ヲノミ占領スルトキニ於テモ然  
 リ是レ敵ヲシテ射撃ヲ分散セシメ從ヒテ彈藥ヲ浪費セシメンカ爲ナリ  
 此ノ如クナルヲ以テ多クノ場合ニ於テ壁ノ破壊ト之ニ要スル彈藥ノ消費トヲ比較シ彼此相償フ  
 ヤ否ヤヲ考ヘサルヘカラス恐ラク壁ノ破壊ハ損失相償フコト能ハサルヘシ蓋シ壁ノ破壊ニ彈藥  
 ヲ供スルカ爲他ニ痛ク缺乏ヲ感スルヲ以テナリ因リテ考フルニ壁モ亦良好ノ掩體ヲ成スカ如シ  
 然レトモ小ナル墻壁ニ向ヒテハ破壊ニ要スル消費ヲ厭フコトナク彈雨ヲ注クヘシ斯ノ如キ支點  
 ノ價值ハ砲兵火ノ下ニ在リテハ微弱タリ但シ砲撃ニ對シ良ク掩護サレアラハ然ラス  
 若シ野戰砲ニ軍ノ重砲兵ノ有スル短加農砲ヲ代用シ墻壁ヲ破壊セントセハ縱ヒ各彈ノ威力大ナ  
 ルモ砲戰砲ヲ以テセルト同一ノ効果ヲ得ンニハ消費彈數ハ一層大ナルヘシ蓋シ尋常ノ射距離ニ  
 於ケル公算躲避ハ野戰砲ノ躲避ヨリ著シク大ナルヲ以テナリ又射擊速度緩慢ナルヲ以テ其時間  
 最モ長カルヘシ

○前地ノ設備ニ於テ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

生籬、樹木、叢藪、板、扉及輕易ナル建物ハ斧、鋸、十字鋏、大槌等ヲ以テ之ヲ毀却シ堅固  
 ナル墻壁及建物ハ爆破スヘシ然レトモ此破壊セシ殘片ハ往々以前ヨリモ良好ナル掩蔽又ハ遮蔽  
 物ト爲リ敵ニ利用セラルルコトアルニ注意スルヲ要ス(日、築、草二十七ノ四)

地物ノ燒却ハ稀ニ之ヲ實施スルコトヲ得而モ我射擊効力ヲ不利ナラシムルノ虞ナキトキニア  
 ラサレハ決シテ之ヲ行フヘカラス(同右、三十七ノ五)

○銃眼及帽堡ノ穿開及築設 銃眼及帽堡ヲ設クルトキハ遠距離ヨリ敵ニ認識セラレ又ハ近距離  
 ニ在リテハ敵ニ照準ノ好目標ヲ與フ故ニ十分遮蔽部分ヲ施シ得ル時間ノ餘裕アルカ若クハ村落  
 森林ノ縁端或ハ側面射撃ヲ行フ火線ノ如キ敵ニ發見サレ難キ位置ニアラサレハ之ヲ設備シ難キ  
 モノトス(日、築、草、六十二ノ二)

○地物ノ應用ニ就テハ左ノ如シ

掩體及障礙ニ應用シ得ヘキ地物ハ地上到ル所ニ存在スルヲ常トス即チ種々ナル土地ノ小起伏



森林、圍牆、建物及村落等ノ如キ皆是ナリ(日、築、草、九十三ノ一)  
 生籬ハ主トシテ遮蔽ニ適用ス而シテ十分密生シ且高キモノハ良好ナル障礙物ト爲リ尙鐵線ヲ  
 編ミ込ミ強固ナラシムレハ一層其度ヲ増加ス(同右、九十五ノ一)  
 板塀、木柵、鐵柵及墻壁ノ應用ニ就テハ築城教範草案第九十七乃至第九十九ヲ見ルヘシ  
 大ナル森林縁ヲ固守スルトキハ林縁ノ諸所ヲ閉塞スルニ樹幹鹿砦ヲ以テシ散兵壕等ノ工事ハ  
 重要ナル地點ニ止メ以テ第一線ノ兵力ヲ節約スヘシ(日、築、草、百〇二)  
 森林、樹叢等ニ鐵線ヲ張ルトキハ有効ナル障礙物ト爲スコトヲ得ヘシ(日、築、草、百〇四)  
 家屋及村落ノ防禦編成ハ野戰築城教範草案第百〇五乃至第百十二ヲ見ルヘシ  
 ○焚火ヲ爲スヲ要スルトキハ殊ニ村落ニ在リテハ風ノ方向ヲ顧慮シ失火ノ虞ヲ豫防スヘシ又各  
 隊ノ配置上妨害ト爲ルヘキ家屋ハ之ヲ燒夷スルコトナク必ス破壊スヘシ是失火ヲ防クノミナラ  
 ス敵ノ爲我位置ヲ發見セラルルヲ防カンカ爲ナリ  
 ○工事ノ擔任、指導ニ關シテハ野戰築城教範草案第二十九ヲ見ルヘシ

### 第三節 防禦ニ於ケル諸種兵ノ用法

(一)歩兵ハ本然ノ防禦ニ任スルコト一般ノ場合ニ同シ  
 (二)騎兵ハ搜索ヲ以テ其任ト爲スコト亦一般ノ場合ニ同シ其既ニ攻者ニ壓迫セラレ前地ニ於  
 ケル搜索勤務ニ服シ能サルニ至レハ陣地ノ一側後ニ退キテ隱蔽シ不意ノ襲撃ヲ以テ著シク防  
 禦ヲ援助スルコトヲ得ヘシ殊ニ小部隊ニ在リテハ不意ノ現出容易ナルヲ以テ奇功ヲ奏スルノ時  
 機アルヘク又單ニ其現出ノミニテモ攻者ニ無形及有形ノ損害ヲ與ヘタルノ例證アリ左ニクンツ  
 氏ノ著書ヨリ騎兵ニ關スル件ヲ拔萃ス  
 騎兵ハ之ヲ小部隊ト爲シ支撐點(自註。村落ハ、森林ヲ稱ス)ノ近傍ニ隱蔽シテ位置セシメ其接戰ニ加入シテ  
 殊功ヲ奏スルコト多シ Swiep 林ノ戰鬪ニ驃騎第十中隊ノ戰鬪ニ加入セシ例 Rongswasha(千  
 八百十三年)及 Hanoum(千八百十三年)ノ騎兵ノ進撃ヲ參考トスヘシ又 Loigny 及 Poudryノ戰



闘ニColomb旅團ハ林空ニ入り佛軍ノ散兵ヲ突破シ其増加兵ノ前進ヲ妨止セリ此部隊ハ大死傷ヲ冒シテ窮屈ナル林空中ニ突入セシモ其佛軍ニ與ヘタル無形上ノ感應ハ頗ル大ナリシ騎兵ノ現出或ハ然ラサルモ突然與フル「注意」ノ號音記號モ尙攻者ヲ驚カシテ一時守者ノ猛烈ナル射擊中ニ躊躇セシムルニ足ル

Hönig氏「未來戰術論」ニ掲クル所ノ一奇事ハ一讀ノ値アリ König Gräde 附近ニ於テ第二十八旅團ノ Meier 森林進擊ノ際朔遜騎兵一中隊道ヲ失シテ偶々其地ニ現出スルヤ數大隊ノ歩兵潰亂シテ此森林ヨリ二百米離レタル Karrelhiden ニ退却シ其散兵モ亦 Knauehn ニ退却シ此ニ集合セリ

Custossa 戰爭ノ日騎兵大尉ノ進擊及 Gopignies 附近ノ驃騎第七聯隊所屬ノ二小隊ノ進擊(千八百七十一年二月二日)ハ一群ノ騎兵部隊モ亦何等ノ奇功ヲ博シ得ルカラ見ルヘシ

森林疎大ノ樹木ナルトキハ騎兵ハ不意ニ現出シ又遮蔽スルニ利アリ凡ソ騎兵ノ襲來スルトキハ其近傍ニ在ル部隊ハ何等ノ説諭ヲ與フルモ舉ツテ之ニ射擊ヲ指向スルモノナルカ故ニ騎兵

ヲ進ムルハ一時敵ノ注目ヲ緣端守兵ヨリ分ツノ利アリト

戰鬪有利ナルトキハ一般ノ追擊ニ於ケルカ如ク敗敵ヲ追擊シ又其不利ニ際シテハ其退却ヲ掩護ス

(三)砲兵ハ先ツ攻撃砲兵ノ猛威ヲ壓倒スルカ然ラサルモ其砲擊ヲ村落又ハ森林外ニ誘致シ然ル後其全力ヲ以テ攻撃歩兵ノ前進ヲ妨害ス

森林ノ緣端ニ放列ノ布置 廣大ナル森林ヲ防守スルトキ(例ヘハ退却ノ際)又ハ村落緣端ヨリ前進シテ防禦線ヲ選定スルトキ其立樹疎ナルトキハ其緣端ニ放列ヲ布置スルコトアリ此際四角ヲ選定スルヲ得ハ攻者ノ歩兵火ヲ被ラサルコトヲ得夫レ森林内ハ大道ノ外運動困難ニシテ狭小ナル樵路ヲ使用スルトキハ多クノ時間ヲ消費スルヲ以テ緣端ニ使用スル砲兵ハ一中隊毎ニ分割スルノ已ムヲ得サル場合屢々生スルモノトス

森林端(殊ニ若干後退シテ)ニ布置セラレタル砲兵ハ其發射音響大ナリト雖亦其反響却ツテ敵ノ觀測ヲ困難ナラシメ其位置ノ認識ヲ惑ハシムルノ利アリ



R書ニ曰ク「佛國 Clunons ニ於テセル至近ノ砲兵機動演習中砲兵尙多ク疎林ノ中ニ陣地ヲ占領セシハ記憶スヘキ事トス斯ノ如ク林内ニ掩蔽セラレテ布置セラレタル砲兵ハ之ヲ發見スルコト容易ナラス」ト

馬匹ハ樹木倒飛ノ爲驚騒シ易キヲ以テ此害ヲ避ケンカ爲敵砲兵ノ射線外ニ置クコトニ注意スヘシ

大森林ニ在リテハ縁端ニ砲兵ヲ置クハ已ムヲ得サル事トス此場合ニ在リテハ其一翼ニ置クカ或ハ林縁ノ凹部ニ置キ以テ敵ノ歩兵火ヲ避クルコトヲ勉ムヘシ其位置ハ運動ニ便ナル爲交通路ノ近傍ニ在ルヲ要ス

村落ノ縁端ニ放列ノ布置 砲兵ヲ村落ノ縁端ニ置クハ之ヲ森林ノ縁端ニ布置スルニ比スレハ一層其價值ヲ減少ス是レ左ノ如キ不利アルヲ以テナリ故ニ唯山戰ニ於ケル村落ノ防禦ノ如キ村落内ノ外放列布置ノ餘地ナキトキ唯一二門ノ砲車ヲ路上ニ配置スルニ過キス

一、運用ノ自在ヲ失フ是レ道路外ノ通過不可能ナレハナリ

二、掩護困難ナリ

三、射界狭小ナリ

四、歩兵ヲ配置スヘキ地域ヲ壅塞ス

五、敵砲火ノ爲撃破セラレ易シ是レ觀測容易ナルト砲兵ヲ集團シテ使用シ能ハサレハナリ

六、家屋ニ觸レタル敵砲彈ノ破裂ニ由リ瓦片等ヲ飛散シ殊ニ火災ヲ起シ易シ

七、速ニ敵ノ小銃火ヲ被ル是レ斯ノ如キ場合ニ於テ概テ歩砲同線上ニ在レハナリ

八、住民地ノ陥落ト共ニ砲煩ノ敵手ニ落ツルヲ免レス

村落(森林)ノ前方ニ放列ノ布置 左ノ不利アリ

一、我歩兵射撃ヲ妨害スルヲ以テ夙ク之ヲ退ケサルヘカラス(例 Serigny) 其際退却多クハ困難ナリ然ラサレハ歩兵戰中ニ混入スルニ至ル

二、敵ノ砲火ヲ他方向ニ誘致セスシテ却ツテ我守地ニ誘フ

(例) Les Coselles 附近(Peanne La Rolandeノ戰闘)ニ在リテハ第十軍團所屬砲兵ノ一



小隊村前ニ放列ヲ布キテ苦境ニ陥ル初村外ヲ繞回セル退路尙開通シアルヤ否ヤヲ偵察セ  
スシテ多數ノ小銃火ノ中ヲ前進シ村前ニ放列ヲ布キタルハ甚タシキ過失ニシテ之カ爲其  
一門ハ之ヲ撤去シ得タルモ他ノ一門ハ村口ノ柵既ニ閉鎖セラレ村外ノ繞回セル道路亦閉塞  
セラレタルヲ以テ委棄セサルヲ得ス其後此砲ノ奪還ヲ命セラレタル歩兵焦心苦慮スト雖  
敵火ノ爲ニ遂ニ該砲車ヨリ百六十米以内ニ近ツクコト能ハスシテ止ミタリ(以上R書)

村落又ハ森林ノ後方ニ放列ノ布置 之ヲ後方ニ位置セシムルハ地形良好ナルトキ即チ超越射擊  
ヲ爲シ得ルカ如キ隆起地ノアルトキノミトス然レトモ第二陣地トシテハ屢々之ヲ選定スルコト  
アリ是レ攻者ノ勝ニ乘シテ之ヨリ突出セントスルヲ妨止スルカ爲ナリ  
村落又ハ森林ノ側方後ニ放列ノ布置 村落又ハ森林ノ防禦ニ於テ砲兵ヲ置クヘキ最良ノ地點ハ  
其側方後トス即チ左ノ利アリ

一、攻者ノ小銃火ヲ被ムルコトナシ

二、敵砲火ヲ受クルモ之ヲ避クルコト容易ナリ

三、攻者攻撃前進ニ際シ戦闘加入ニ便ニシテ長ク射撃ヲ爲スコトヲ得

四、我攻勢移轉ノ方向若干變スルモ其戦闘渦中ニ投スルノ虞ナシ

村落又ハ森林ノ側方後ニ展開ノ餘地ナキトキハ歩兵ヲ以テ其側方ニ在ル村落(Porcourt)ノ St  
Privat ニ於ケルカ如キ及 Ornesau Courmiers ニ於ケルカ如キ)又ハ森林ヲ占領セシメ以テ砲  
兵ヲシテ該兩村落又ハ森林ノ間隔内ニ於テ陣地ヲ占領セシムルヲ可トス

(日、歩、操、百〇一ノ三)防禦ニ在リテハ森林若ハ住民地ハ敵ノ彈巢ト爲ルコト多シ砲兵及豫  
備隊ハ之カ爲局外地外ニ配置スルヲ常トス

(四)工兵ハ前線ノ工事終ルノ後ハ之ヲ第二線タル地障及複廓ノ工事ニ使用ス此第二線ノ工事ハ  
戦闘開始後モ尙之ヲ行フヲ得ヘシ次ニ要スレハ村落又ハ森林ノ後方ニ收容陣地ヲ設ク

R書ニ曰ク「工兵ヲシテ歩兵ノ戦闘ニ加ハラシムルハ嚴禁スヘシ(Worth 附近ノ第十一軍團  
ノ工兵中隊及 St. Privas 内ノ佛軍造兵中隊)工兵ノ豫備ニ屬スルモ亦齊シク禁スヘキ事ト  
ス(Froschmillerノ佛軍造兵中隊)工兵ハ其戦闘ニ加ハルヨリ第二區及收容陣地ノ工事ニ服シ



交通ヲ疎開スル等軍隊ノ爲ニ盡スコト頗ル多シ又工兵ハ防禦ノ區處ニ於テ軍隊指揮官ノ顧問及助手タリ

### 第四節 守兵ノ兵力及區分

○夫レ戰史ノ證スル所ニ依レハ村落及森林防守ノ成敗ハ其守兵ノ多寡ニ關スルモノニアラスシテ寧ロ兵ノ精粗及指揮其人ヲ得ルト否トニ關ハル即チ兵數少ナキモ精熟ニシテ良指揮官ヲ有シ且巧ニ地形ヲ利用シ頑強ニ抵抗スルトキハ不熟ニシテ其兵力優勢ナル者ニ對シ勝利ヲ占ムルト容易ナリトス

(例) Beranne La Rolande

(例) 日露戰役沙河對陣中明治三十八年一月下旬露軍ノ攻撃ニ對スル李大屯、韓山台、啞叭台、沈亘堡及黑溝台ニ於ケル日軍ノ防禦

然ルニ奇異ナルハ壯兵及新ニ編成ノ軍ノ如キ未熟ノ兵平野ノ戰鬪ニ在リテハ精熟ナル常備軍ニ對スルコト能ハサルモ村落ノ周圍堅固ナルトキハ之ニ對シ得タル例證ナリトス

(例) Chataudan

現今火器ノ精巧ヲ極ムルニ至ルモ以上ノ事實ハ毫モ變化ヲ生セサルナリ即チ知ル將來村落又ハ森林ノ防禦モ其方法宜ヲ得ルトキハ決シテ望ミナキニアラサルコトヲ

○村落(森林)ノ防禦ニ任スル歩兵部隊ノ區分 村落(森林)ノ防禦ニ任スル歩兵部隊ヲ分チテ村

落(森林)占領部隊(即チ村落(森林)内ノ)ト外部隊豫備隊(村落(森林)外ノ戰鬪ニ任スルモノニシテ防)トス

(甲)村落(森林)占領部隊ト外部隊豫備隊トノ兵力比例 村落又ハ森林ノ直接防守ニ任スル部隊

ノ兵力ハ成ルヘタ少キヲ要ス何トナレハ此部隊過大ナルトキハ彼此相互ニ妨害シテ運動ノ自由ト掩蔽ノ利トヲ失シ容易ニ敵砲火ノ慘害ヲ被リ且外部隊豫備隊ノ兵力ヲ減スルノ不利アレハナリ

且書ニ曰ク「凡ソ住民地戰(自註。森林戰ニ於テモ之ニ準スルハ勿論ナリ)ニ於テ其勝敗ハ支點(自註。支點トハ支隊點トシタル住民地又ハ森林ヲ謂フ)



以下)外ニ於ケル戰鬪ノ經過及外部豫備隊ノ戰鬪加入ノ巧拙ニ由リテ決スルモノトス又守兵ノ支點(Chilly le Bourget)或ハ支點内ニ於ケル核點(複廓)ヲ固守スルハ唯統帥部ノ爲決戰ノ準備ヲ爲スノ時間ヲ與フルニ在リ故ニ住民地及森林ノ守兵ハ之ヲ防守シ得ルヲ度トシテ勉メテ少キヲ要ス過多ノ兵力ヲ其内部ニ集結スルハ是レ徒ラニ死傷ノ數ヲ増加スルノミ之カ爲防禦ノ力ヲ添フルモノニアラス(St. Hubert, St. Privat)

又曰ク「森林及村落内ニハ廣濶ノ地少ナク守兵其内ニ集マルコト多ケレハ唯互ニ其運動ヲ妨害シ且掩蔽ノ利ヲ失フノミ佛軍ハ獨軍ノ大砲撃ヲ避ケ競フテ Le Garenne 林内ニ竄入セリ(Serlianノ戰鬪)其兵數ハ今日之ヲ知ルヘカラサルモ負傷セサリシ佛軍ノ捕虜普國近衛第一師團ノ手ニ落チシ者一萬五千人ナリシ(中略)獨軍砲兵ハ千二百米乃至千六百米ヨリ秩序正シク射撃シタルヲ以テ其効力猛烈ニシテ狭小ノ地ニ廣集シアリシ所ノ佛軍ハ忽チ隊伍紊亂シ終ニ林縁ヲ防守スルコト能ハス稀ニ頑強ニ抵抗セシ者アリシモ殆ント皆狼狽匍匐シテ投降セリ此日普國近衛步兵第一師團ノ死傷ハ僅ニ將校十二名兵卒二百二十名アリシノミ

La Falia 森林ノ防守モ之ト同シク敵ノ榴彈ノ持續射撃ヲ受ケタリ然ルニ兩者其結果ヲ異ニスルハ其理由守兵ノ數如何ニ在リ即チ甲ハ逃ケ來リタル兵集マリテ森林内ニ充塞シ乙ハ恰モ防守ニ適當ナル兵數小林内ニ在リテ能ク掩蔽セラレ加之最モ機敏老練ナル指揮官(是レ Davout Diersadt ニシテ八月三十一日第九十五聯隊ヲ以テ Kisseille)ヲ有セシニ因ル是ニ由リテ之ヲ觀レハ森林若ハ村落ノ守兵ハ勉メテ少ナキヲ可トスルヲ知ルヘシ之ヲ滅シテ甚タシキニ過クルノ害ハ實際極メテ少ナシ(千八百七十年十二月二十一日 Le Bourgetノ防禦)然レトモ其過小ノ弊ハ固ヨリ慎マサルヘカラス然ラサレハ久シカラスシテ増加兵ヲ派遣シ最初ヨリ防守ニ十分ナルヘキ兵數以外ニ増援スルニ至ルヘシ此失策ノ例ハ Chap 林ノ戰鬪是ナリト又曰ク「其兵ヲシテ其日ノ勝敗ハ一ニ頑強ニ抗戰スルニ在ルコトヲ曉知セシムルトキハ能ク三倍乃至四倍ノ敵ト戰フコトヲ得ヘシ」ト

村落(森林)占領部隊ノ兵力ハ一定不變ノモノニアラス敵狀、地形、其他ノ狀況(守備スヘキ線端ノ)殊ニ防禦ノ目的(決戰ニ在ルカ持)ニ由リ四分三乃至二分一ノ間ニ變化ス(以上掲ケル)然レトモ成ルヘク



建制ヲ保持シ主要ナル地點殊ニ緊要ナル支撐點ニハ多數ノ兵力ヲ配置スヘキハ自然トス又一支撐點ニ用ユル兵力ハ步兵一中隊ヲ下ルコトナシ是此以下ノ兵力ニテハ戰鬥能力上到底一支撐點ヲ保守スルコト能ハサレハナリ

決戰ヲ欲スルトキハ外部豫備隊ノ兵力ハ成ルヘク大ナランコトヲ欲スルハ一般ノ場合ニ同シ而シテ既ニ村落(森林)占領部隊ノ兵力決定セハ其剩餘四分一乃至二分一ハ外部豫備隊ノ兵力ナリトス

集團工事ニシテ地點ヲ固守スル目的ヲ有スルモノニ在リテハ四方ニ對シ堅固ニ防禦工事ヲ施シ特ニ奇襲ヲ防遏スルニ便ナル爲多クノ障礙物ヲ應用シ之ヲ防禦ノ支撐點ト爲ス小ナル地域ニ在リテハ閉鎖野堡亦此目的ニ使用セラル又村落、森林モ亦之ニ應用セラルルコトアリ支撐點ノ守者ハ通常歩兵一中隊以下ヲ用ユルコトナシ(日、築、草、十三)

戸山學校用本戰術學ニ曰ク「森林ヲ占領スル軍隊ノ配布ハ林縁ニ適應セサルヘカラス之ヲ占領スルニハ正面一步ニ一乃至二名ヲ充テ其守備ヲ嚴ナラシムルニハ占領スヘキ部隊ノ四分一

乃至三分一ヲ林縁ニ配布シ其後方ニ各自ノ豫備隊ヲ備ヘ更ニ全隊ノ三分一乃至二分一ヲ以テ總豫備隊ヲ備フルヲ可トス又森林中地區ヲ區劃シ各大隊獨立シテ其任地ヲ守備スルトキハ二中隊乃至三中隊ヲ以テ林縁ヲ占領シ殘餘ヲ以テ豫備隊ト爲シ適時ニ戰鬥ニ加入スルニ便ナル位置ニ在ラシムヘシト

自註。此說ニ依レハ持久戰ヲ爲スヘキ場合ニ正面一步ニ一乃至二名ヲ配布シ得ル如キ標準ヲ以テ兵力ヲ決定シ決戰ヲ爲ストキハ其防禦地區ハ守備ヲ嚴ナラシムル爲占領部隊ノ兵力ハ全隊ノ三分二乃至二分一(内四分一乃至三分一ヲ線端守兵、四分三乃至三分二ヲ内部豫備隊ト爲ス)ニシテ外部豫備隊ハ三分一乃至二分一ナルヲ知ル

R書ニ曰ク「其目的勝利ヲ期スルニ在ルトキハ村落占領部隊ノ兵力ハ勉メテ多カルヘク(全數ノ二分一乃至四分一)或ハ一時防禦ニテ時ヲ移スニ止マルトキハ寡少ニシテ可ナリ(四分一乃至六分一)今此數ヲ確定スルコト能ハス(自註。絕對的ニ此ノ如キ決定ヲ)Beauneノ防禦ハ蓋シ頑強ナルモノニシテ其背後ヨリ進ンテ輸贏ヲ決セシ第五十二聯隊ノ十中隊ヲ以テ外部豫備隊ト爲セハ村落占領兵(自註。本書ノ所謂線端守兵ナラン)二十四小隊ニシテ内部豫備隊五小隊ナリシト雖其實戰



闘間豫備隊ハ半小隊(自註。半小隊トハ過少ナリ若四小隊編成ナリセハ半中隊ノ誤ナランカ)タルニ過キサリシ今若正當ニ此占領部隊ノ多寡ヲ論スレハ是レ決シテ許スヘカラサル事ニ屬ス又以テ戰術上一定不變ノ規則ヲ設クヘカラサルヲ證スヘシト

又曰ク「火線上二步或ハ三步ニ一兵ニシテ十分ナリシ例證多シ縱ヒ多クモ一步ニ二三名ヲ五エサルヘク一步ニ三名ヲ用ユルニ至リテハ蓋シ誤リナリ何トナレハ總指揮官ハ支點ノ兵力ヲ節約シ其攻勢ニ用ユル兵力ヲ増大スルコトヲ勉ムヘキモノナレハナリ元來正面ニ於テハ歩兵ハ堅固ニシテ直接援助ノ兵ヲ缺クモ可ナルヘク村落又ハ森林内ノ死傷ハ比較的僅少ナルモノナレハ死傷補充ノ爲ニ多クノ兵數ヲ貯フルノ必要平野ニ於ケルカ如ク大ナラス又防禦ノ目的唯一時敵ヲ拒止シテ時間ヲ費ス爲ニ在ルト絶對的ニ全力ヲ盡シテ其地ヲ固守スルニ在ルトニ由リ兵數ノ多寡ヲ決定セサルヘカラス又支據點ノ位置敵ノ近接攻撃ヲ受クルノ虞ナキトキハ守兵ヲ少ナクスルモ可ナリ又敵ノ攻撃方向十分明了トナリシ後ハ守兵ヲ減少シ得ルコトアリ又既ニ村落又ハ森林ヲ占領シ且障礙及阻絶ヲ設置セシ後ハ守兵ヲ減スルヲ得ヘク彈藥數ヲ増

加スレハ亦以テ兵數ノ不足ヲ補フヲ得ヘシ

一區ノ占領ニ充テラレタル部隊其守備工事ノ進ムニ從ヒ其兵數ヲ節約シ得ルハ一奇ナリ *Paulus* 氏ノ「*Meu* 備忘録」第百二十五頁ヲ見ルニ敵軍突圍ノ虞最モ多キ *Gravello-Terdun* *Autilly-diedenhofen* ノ二正面ハ初メ其延長一步毎ニ守兵三、八及三、六五名ヲ置キシカ守備及交通ノ完成スルニ及ンテ其數ヲ減シテ一步ニ二、九四及二、五名ト爲セリ加之 *Montoy* *Ars* *Lagnenexy* ノ線上ニハ減シテ延長一步上ニ一、二九名ニ至リシト云フ

又曰ク「吾曹ノ見ル所ヲ以テスレハ周圍一步毎ニ(周圍屈曲シテ出入アルトキハ直接ニ縁端主要ノ點ヲ測リ其全長ニ更ニ二分一ヲ加フ)一名乃至一名半ト算シテ足ルヘシ(中略)此部隊ハ他ノ支援ヲ待タスシテ自ラ支點ヲ守ラサルヘカラス又防禦ノ總指揮官ハ支點占領部隊ノ援助ノ請求ニ應スヘカラス元來村落又ハ森林内ニ戰闘スル者ハ其眼界頗ル局限セラレ支點外ニ在ル總指揮官ノ其眼識及諸種ノ情報ヲ得テ全般ノ事情ヲ明ニスルト其趣ヲ異ニス殊ニ包圍及包圍ノ企圖ヲ速ニ知ルコトヲ勉メサルヘカラス夫レ廣野ニ戰闘スル軍隊ハ多少尙指揮官ノ手



裏ニ存スルモ村落内ニ戰フ所ノ軍隊ハ其指揮ヲ脱シ易ク殊ニ森林及家屋内ノ守兵ニ至リテハ運用ノ自在全ク亡失ス然レトモ森林若ハ村落内ニ於テ確乎タル決心ヲ以テ獨力戰鬪ニ任セラレタル部隊ニシテ守備整頓シ糧食衛生彈藥飲水豊饒ナルトキハ其防禦力ハ殆ント無盡ナルモノナリ

Austerlitzノ戰鬪ニ於テ其勝敗ノ決ハ一ニ *Lausson* 村ノ嬰守如何ニ在リ拿翁ハ將官ニ其任務ノ重大ナルコトヲ訓諭セシ後「其結局一人ニ至ル迄」必ス之ヲ嬰守スルコトヲ誓ハシム。普國中尉 *Gauvain* ハ千七百九十三年三月二十七日「其手巾ノ衣裳中ニ燃ユルニ至ル迄」萊尼河畔 *Stronberg* 附近ノ *Soldenels* 城館ヲ嬰守スヘキヲ命セラレ

又曰ク「支點占領ノ爲步兵ノ數ヲ定ムルニハ周圍約二百五十歩ニ一中隊、八百歩迄ニ多クモ一大隊ニ算シテ可ナリ但シ此數ハ持久防禦ノ場合ニアラス」ト

防禦地區ノ區分 村落又ハ森林ハ地區ニ分チ各地區ニハ一建制部隊(大隊及中隊)ヲ備ヘ各別ニ防禦スヘキモノトス各地區ノ境界ニハ突角、出口其他緊要ナル防禦點ノ現存セサルヲ要ス此等

ノ地點ハ多クハ攻撃點ト爲ルヲ以テ各地區ノ守備ヲ明示シ決シテ兩地區ニ跨リ防禦ノ責任ヲ負擔セシムヘカラス(之方爲比隣部隊ト交通ヲ便ニスル爲特別ノ工事ヲナスヘシ此ノ工事ニ統ヒ)

村落(森林)占領部隊ノ區分 左ノ如シ(第一圖)

緣端守兵

内部豫備隊(規模小ナルモノニ在リテハ内外豫備隊ヲ合シテ一ト爲シ之ヲ外部ニ置クコトアリ)

複廓守兵

緣端守兵ハ緊要ナル防禦點即チ凸出部、出口、等ヲ守備スルモノトス

步兵一大隊獨立シテ村落ヲ守備スルモノト假定セハ之ヲ二聯隊ニ區分ス即チ緣端守兵、援隊竝内部豫備隊トス先ツ三中隊ヲ各地區毎ニ配置シ此中隊ハ各二小隊ヲ緣端守兵ニ任シ一小隊ノ援隊ヲ備フ他ノ一中隊ヲ内部豫備隊ト爲ス然レトモ地形之ヲ要スレハ其一節ヲ村落ノ後方若ハ後方ニ分置スルコトアリ(第二圖)



緣端守兵ト内部豫備トノ兵力比例ハ概チ村落(森林)占領部隊ト外部豫備隊トノ標準ニ據ル左ニ  
二三ノ説ヲ參考ノ爲掲ク

メツケル氏曰ク「周縁ノ戍兵ハ凡テ其一半ヲ以テ火線ヲ成形ス」ト果シテ然ラハ他ノ一半ヲ  
以テ内部豫備隊ニ充ツルノ意ナラン

戸山學校用本戰術學ニハ三分一乃至四分一ヲ緣端守兵ト爲シ三分二乃至四分三ヲ内部豫備隊  
ト爲スト云ヒ某書ニハ彼此轉書シアリ

内部豫備隊ノ用途 内部豫備隊ハ緣端守兵ト合シ一體ヲ爲スモノノミニシテ其用途左ノ如シ

一、敵ノ攻撃ヲ受クルコトヲ知リタルトキハ其點ニ在ル緣端守兵ヲ増加ス

二、敵若緣端内ニ侵入シタルトキハ銃劍ヲ揮ツテ之ヲ驅逐ス

三、地障若ハ複廓ニ據リテ守兵ノ退却ヲ收容シ若ハ此等ノ地點ノ防禦ニ任ス

内部豫備隊ノ位置ニ關シテハ左ノ事ヲ參考トスヘシ

五書曰ク「内部豫備隊ノ位置ハ林縁ト平行セル第一ノ横路ヲ可トス亦第二防區(隙地)及核點

(隙)ニ置クコトアリ Servigny 及 Noisseville 共ニ第二防禦ヲ設クト雖其占領時機ヲ失シタル

ヲ以テ用ヲ爲ササリシ(尙其一例ハ陸馬軍二重陣地ノ第一線敵ニ奪取セラレタル後第二線モ亦直ニ奪取セラレタルニ在リ千八百六十四年參謀部記錄第二卷第五百三十九頁)砲兵射撃ノ

間ハ此用ニ充テラレタル歩兵村落又ハ樹林ノ外ニ在ルヘシ然レドモ歩兵進撃既ニ開始セラレ

タルトキハ速ニ其位置ニ就キ前線退却スルニ至レハ其戰鬪ヲ擔任セサルヘカラス

村落又ハ森林敵方ニ縦長ナルトキハ内部豫備隊ハ其中央或ハ側後ニ置クヘシ是レ内部ノ戰鬪

ヲ扶援シ要スレハ好機ニ投シ攻勢ニ轉センカ爲ナリ(記)

村内ノ家屋(所謂複廓)ヲ占領スヘキヤ否ヤハ戰鬪ノ目的如何ニ關ス若頑強ニ村落ヲ防守セント

スルトキハ家屋ヲ占領スレハ防禦力ヲ増大ス然レトモ家屋ヨリノ遠距離射撃ハ効力ナク又守兵

ハ退却困難ニシテ且動モスレハ慘酷ナル村落戰ニ陥ルモノナルヲ以テ其目的一時ノ防禦ニ存ス

ルトキハ家屋ハ之ヲ占領セサルヲ可トス

五書ニ曰ク「家屋ノ守兵ハ攻者既ニ近逼シ敵ノ砲火復々恐ルルニ足ラサルニ及ンテ始メテ銃

火ヲ開クヘシ然レトモ樹籬多ク綿亘セル地方(Hossein Ospreisland 及 le Mans)ニ在リテハ



勉メテ多ク家屋ヲ占領スヘシ是レ遠距離ヲ射撃センカ爲ニシテ離後守者ノ射界ハ多ク數百米ノ外ニ及フコトナケレハナリ砲兵モ亦此地ニ於テハ多ク其効力ヲ發揮スルコト能ハス *Geisberg* 城館及 *Weisberg* ノ防禦戰鬪ノ頑強ニ過キシハ當時ノ失策ニシテ降虜ノ數比較的多カリシハ之ニ因セリ千八百六十三年六月二十二日墺軍ノ *Schmunscheder* 農園ノ防禦モ亦同一過失ヲ犯スモノニシテ墺國歩兵第三十七聯隊第二大隊カ農園ノ防禦ニ於テ死傷二百名ノ外捕虜三百普軍ノ手ニ落ッ若一片ノ訓令其防禦ヲ節スルアラハ此大死傷(殊ニ捕虜)ノ數ヲ減スルコトヲ得シヤ明ナリ

(乙)外部豫備隊

此部隊ハ決戰ヲ欲スルトキハ最モ緊要ナルモノニシテ決<sup>○</sup>テ之ヲ缺クヘカラサルノミナラス成ルヘク多ク備フルヲ要ス

メツケル曰ク局地戰ニ於ケル局地ノ守兵ハ猶楯甲ノ如ク外部豫備隊ハ猶刀劍ノ如シ守兵ハ敵ノ進撃ヲ抗拒スルコト恰モ楯甲ノ如ク外部豫備隊ハ敵ノ弱點ニ乘シ致命傷ヲ與フル

コト恰モ刀劍ノ如シ

兵力 前掲「村落(森林)占領部隊ト外部豫備隊トノ兵力比例」ヲ見ルヘシ  
任務 左ノ如シ

一、村落又ハ森林外ニ於テ敵ノ動搖ニ乘シ攻撃的動作ヲ以テ決戰ノ局ヲ結フ

(例) *St. Priva* ノ戰鬪ニ於テ普國近衛兵ハ其最初ノ進撃頓挫シ復々進ム能ハサルニ方リテ佛軍本豫備隊ニ此機會ヲ與ヘタリ

二、外方ヨリスル敵ノ動作即チ包圍若ハ迂回等ニ應ス

殊ニ敵兵ノ突撃ニ方リ其側面ヲ攻撃シテ之ヲ拒止ス

三、守地若敵手ニ落タルトキハ之ヲ奪還スル爲恢復攻撃ヲ爲ス又時トシテ内部ノ守兵ヲ増援ス

R 書ニ曰ク「外部豫備隊ハ住民地又ハ森林内守兵ノ援助トシテ用ヒサルヲ原則トス其任務ヲ果タスル須要ナル精力ヲ養フハ唯妄ニ進戰スルヲ避クルニ由テ得ヘシ獨リ森林、市



街或ハ大ナル集團部落等ノ如キ歩兵ヲ以テ迂回スルコト能ハサルトキニ於テ守兵必ス勝  
敗ヲ決セント欲スルトキ外部豫備隊ヲ内部ノ戦闘ニ用ユルコトヲ得

四、追撃又ハ守兵ノ收容ニ任ス  
外部豫備隊ノ位置ハ通常中央後或ハ特ニ危殆ナル翼後ニ於テ常ニ戦闘參與ノ準備ヲ爲シアル  
ヘキモノトス(防禦參照)然レトモ村落(森林)縦長ナルトキハ其中央部ニ位スルヲ可トス  
且書ニ曰ク「外部豫備隊ノ位置ハ敵兵攻撃ノ方法ト守兵ノ戦闘計畫ニ隨ツテ決定セラルヘ  
キモノナリト雖住民地又ハ森林ノ小ナルモノニ在リテハ其中央後ニ占位スヘク其大ナルモ  
ノニ在リテハ最モ顧慮スヘキ翼後ニシテ隨時攻勢移轉ノ便アル地點ヲ可トス

## 第三章 攻 者

### 第一節 攻撃ニ於ケル兵力區分及諸種兵ノ用法

#### (一)歩兵

歩兵ハ本然ノ戦闘ヲ負擔故ニ其兵數愈々多ケレハ成算愈々確實ナルヘシ殊ニ包圍ヲ企圖スル  
場合ニ於テ然リトス然レトモ村落又ハ森林ヲ占領スル守者ヲ擊退スルニハ果シテ其兵數幾何  
ヲ要スヘキヤハ標準ヲ定ムルコト能ハス何トナレハ敵ノ抵抗力、地形、我任務ニ依リテ變化  
スレハナリ然レトモ狀況之ヲ許セハ牛刀ヲ用ヒテ雞ヲ割クニ吝ナルヘカラス何トナレハ逐次  
兵力ヲ使用スルハ恰モ終始寡兵ヲ以テ衆兵ニ戰フト等シク故ラニ優勢ノ利ヲ敵ニ讓ルモノナ  
レハナリ

且書ニ氏曰ク「攻撃ニ在リテハ歩兵ノ數愈々多ケレハ愈々可ナリ是戦闘ノ重任主トシテ歩  
兵ノ双肩ニ懸レハナリ Ste. Marie aux Chenes ノ守兵千四百五十名ニ對シ普國及朔遜軍ノ  
戦闘員ハ一萬六百名ナリシ又 St. Pirvae ノ守兵ハ九千五百名ニシテ二軍團ノ歩砲兵其主  
力ヲ擧ケテ之ヲ攻撃シ僅ニ之ヲ屈服セリ斯ノ如キ支撐點若不足ノ兵力ヲ以テ攻撃スルトキ  
ハ戰爭ノ焦點ト爲ルヘシ Swiep 森林ノ攻撃ハ其適例ニシテ塙軍必ス此森林ヲ攻撃セント



欲セハ逐次其五十大隊ヲ戦闘ニ加入センヨリハ寧ロ其二十五大隊ヲシテ能ク相協同シテ一舉ニ戦闘セシメハ其奏功蓋シ遙ニ大ナリシヤ必セリ  
又曰ク攻者苟モ勝利ヲ期セント欲セハ凡ソ有ラユル兵力ヲ皆戦闘ニ參與セシムヘシ元來守者ノ兵數ハ戦闘後初メテ知り得ルヲ常トス然ルニ攻者其目的ヲ達スルニ二倍又ハ三倍ノ兵力ヲ用ユヘシトノ説ハ蓋シ根據アルモノニアラサルナリ然リ而シテ決勝ノ地點ニ用ユルノ兵力愈々多クレハ勝利愈々確實且迅速ナリト

又曰ク「包圍攻撃ニ在リテハ其兵數最モ多キヲ要スルハ論ヲ待タス包圍ノ準備周到ナルハ最大緊要ノ事ニシテ其變シテ正面攻撃ト爲ルヲ防クニハ殊ニ然リ斯ノ如ク正面攻撃ニ變スルハ包圍運動ノ正面ニ接近シ又ハ包圍部隊ノ迂回運動不足ニシテ守者ノ側面ニ出テサルニ因ル故ニ其外翼ニ梯隊ヲ備ヘ之ヲ糾正スルヲ要ス Wirth 附近 Niedervald ノ戦闘 Ste. Maril Aux Chenes ノ戦闘 St. Privas ノ戦闘 Le Bourget ノ戦闘ハ包圍攻撃ノ好例證ナリ包圍ノ失敗セルモノ其變シテ正面攻撃ト爲リシモノハ Speiheren 戦闘中第三十九聯隊

第一第二大隊ノ Tiefelt 森林ノ進撃其他第一線ヨリセル幾多ノ包圍攻撃ノ (Halne 河畔第二十八聯隊ノ Frechen court 攻撃ノ如キ) 是ナリ

### (二) 騎兵

騎兵ハ搜索勤務ノ外尙左ノ任務ヲ負擔ス

- 一、攻撃歩兵ノ側面ヲ掩護ス
- 二、迂回運動ニ由リテ外部ノ守兵ヲ脅威シ且好機ニ投シテ之ヲ襲撃ス又戦闘將ニ決セントスル際陽攻ヲ行ヒ以テ敵ノ砲火ヲ自己ノ方向ニ誘致ス  
クンツ氏曰ク騎兵ノ小部隊能ク地形ヲ利用シテ襲撃ヲ施行スルトキハ奇功ヲ奏スルコト多シ其大部隊ニ在リテハ(例ヘハ騎兵第五師團 Reiers 旅團ノ八月十八日ニ於ケルカ如キ) 概テ其死傷ヲ避クル爲ニ遠ク戦線ト相離隔スル地ニ位置スルヲ以テ往々戦闘加入ノ好機ヲ逸スルニ至ル
- 三、村落又ハ森林ヨリ撃攘シタル敵ヲ追撃ス



(11)砲兵

此攻撃ニ於テ砲數ノ多キヲ要スルコト又敢テ歩兵ニ讓ラス蓋シ森林殊ニ村落ノ攻撃ニ於テ砲數ノ多キニ失シタルノ例未タ嘗テ是アラサルモ砲兵戰ノ準備不足ニシテ歩兵攻撃失敗セル例證甚タ多ケレハナリ

(日、歩、操、百〇六ノ一) 住民地ノ攻撃ニ在リテハ砲兵特ニ野戰重砲兵ハ突撃點ニ向ヒ火力ヲ集中シテ之ヲ破壊シ又ハ火災ヲ起サシムルコトヲ勉メ工兵ハ爆藥ヲ以テ圍壁ヲ破壊スル等協同シテ歩兵ノ攻撃ヲ容易ナラシムヘシ

夫レ砲兵ハ攻撃ニ於テ偉大ノ價值ヲ有スルモノニシテ其任務ハ歩兵ノ攻撃ヲ容易ナラシムルニ在リ之カ爲砲兵ハ守者ノ砲兵ヲ壓倒シ然ル後軍隊、掩蔽物、障礙及家屋等ヲ射撃スルト共ニ防禦線、障礙線タル因縁殊ニ本攻點ニ向ツテ其火力ヲ集注ス

メツケル氏曰ク「内部ニ向ツテスル火力ハ寡少ナルヲ要ス是其効力ヲ期待シ難ケレハナリ」之ハ最初ノ時期ナラン

歩兵攻撃前進ニ方リ其一部ヲシテ之ニ隨伴セシムルヲ可トス(野戰砲兵操典改正 草案第四百四十九)之カ爲其砲兵ハ死傷ヲ受クルモ攻撃歩兵ノ支援ト爲リ著シク其志氣ヲ發揚スルモノナルヲ以テ此利ハ其損傷ヲ償フニ足ル

(例) Wörthノ戰闘中 Seglins V. Gillern 及 Olmesorgeノ砲兵中隊

斯ノ如ク攻撃歩兵ニ隨伴スル一二中隊ノ砲兵ノ射撃ハ能ク村落(森林)ニ據ル頑強ナル守兵ノ抵抗ヲ挫折スルニ効力アルモノトス

攻者ノ砲兵ハ村落殊ニ農廈ニ於テハ點火シ易キ物體例ヘハ集積セル穀倉藁葺ノ屋蓋等ニ向ヒ攻撃シ火災ヲ生セシムヘシ

既ニシテ歩兵ノ前進及戰闘ノ進捗ニ方リテ我歩兵ニ危害ヲ及ホスニ至レハ殊ニ内部ニ向ツテ砲撃シ或ハ其射線ヲ再ヒ敵ノ砲兵又ハ外部ニ在ル守兵ニ轉向スルヲ可トス

攻撃歩兵緣端ニ突入シタル後ニ於テ砲兵ノ主トシテ勉ムヘキ事ハ既得ノ新陣地ヲ堅固ニ占領スルニ在リ尋テ攻者隊伍ヲ整頓シ其大森林又ハ大村落ヨリ突出スルニ方リ之ヲ支援スルニ在



リ  
(四)工兵

工兵ハ殊ニ村落ノ攻撃ニ缺クヘカラサル兵種ナリ  
攻撃ニ際シ障碍ヲ除去スル爲工事部隊ヲ編成シ必要ナル器具及爆薬ヲ携行シテ火線ノ後方ニ  
跟随セシム此部隊作業手十乃至二十名ヨリ成リ主トシテ工兵ヨリ編成セラレ  
攻撃歩兵突入口ヲ開キ且家屋ヲ奪取スルニ從ヒ工兵ハ速ニ之ニ防禦設備ヲ加フ

第二節 偵察及砲戰

○偵察ハ一般ノ場合ニ於ケルカ如ク斥候及視察ニ依リテ之ヲ行ヒ要スレハ威力ヲ以テス繫留氣  
球ノ効用モ亦大ナリトス

○偵察ノ要件左ノ如シ

- 一、掩蔽シテ接近シ得ヘキ前進路
  - 二、敵ノ設堡工事及占領ノ状態殊ニ縁端ヲ占領スルヤ否ヤ
  - 三、障碍ノ有無及除去ノ方法
  - 四、本陣地ナリヤ將又前進陣地ナリヤ
  - 五、陣地ノ弱點殊ニ突角ノ有無之ニ接近ノ難易
  - 六、森林(村落)ヲ迂回セル道路ノ景況或ハ其内部ニ在ル道路網景況
- 偵察 此偵察ト共ニ砲兵及工兵將校ヲシテ各本科ニ關シ所要ノ偵察ヲ爲サシム
- 攻撃方法ノ選定 右ノ偵察ノ結果ニ依リテ攻撃部署ヲ決定ス元來村落又ハ森林内ニ侵入スル  
トキハ亂戰ト爲リ殊ニ家屋攻撃ノ如キハ最モ殘忍ノ激戰ト爲ルモノナルヲ以テ成ルヘク森林内  
ニ侵入スルコトナク敵ヲシテ其陣地ヲ棄テテ退却スルノ餘義ナキニ至ル如クスルヲ最良トス之  
カ爲ニハ通常正面ヨリ迫ルノミナラス迂回或ハ包圍ヲ以テ之ヲ陷ルヲ通則トス (村落ニシテ其側面  
キハ守兵ハ非常ニ危險ナリトノ感念ヲ懷キ爲ニ壓  
々堅固ニ守備セル村落ヲ棄テテ退却スルコトアリ) 迂回ヲ爲スニハ其正面ニ當ル必要ノ兵力ヲ此ニ殘置シ本



村落及森林ニ對スル砲撃ニ關シ參考ノ爲書ヨリ左ニ拔萃ス  
 支點ノ砲撃ハ其初縁端ヲ射撃シ次ニ内部ニ及フヲ最良トス防禦砲兵未タ全ク擊破セラレサル  
 間ハ攻者ノ砲兵ハ其一二中隊ヲ之ニ當テテ其戰鬪參與ヲ抑留スヘシ守者逆襲シ來ラハ砲兵ハ  
 全力ヲ盡シテ之ヲ射撃シ步兵ヲ煩ハサスシテ之カ擊退ヲ圖ルヘシ支點ヲ砲撃スルニハ成ルヘ  
 ク二面又ハ三面ヨリシ其全部ニ射撃ヲ及ホス如クスヘシ支點ヲ分チテ數區トシ各區毎ニ全砲  
 數ヲ悉クシテ逐次射撃シ以テ一翼ヨリ他翼ニ及フハ吾曹ノ見地ヲ以テスレハ適當ナラス何ト  
 ナレハ豫備隊ハ終始村(林)内射撃ノ及ハサル地ニ避ケテ安全ヲ求ムレハナリ若シ縁端ヲ射撃  
 シ次ニ内部ニ及ハント欲セハ次ノ方法ニ出ツルヲ可トス即チ縁端ヲ分チテ數區ト爲シ砲兵一  
 中隊毎ニ一區ヲ配當シテ射撃セシム其一中队ノ内第一砲ヲシテ縁端ヲ射撃セシメ爾餘ノ砲門  
 モ之ト同一方向ニテ一門毎ニ角度ヲ高クスルコト百歩ナラシム斯ノ如クスルトキハ全縁端及  
 (林)村内五百歩ノ地ハ普ク榴彈ヲ破リ破片ハ尙其以外ノ地ニ及フヘシ然レトモ(林)村外何レ  
 ノ地ニカ敵兵アルヲ見ハ全砲兵ノ火力ヲ之ニ集注スヘシ

(Dohetche 氏砲兵書第三卷五十三頁今砲兵  
 中队千五百米ノ距離ヨリ支點ノ縁端ヲ射撃シ

餘砲一門毎ニ百歩ノ高度ヲ加ヘテ發射セハ此五砲千五百米間ノ最高或ハ九米六、二十二米八、三十二米、四十三米及五十  
 四米ニシテ林木ノ高さ二十米トスレハ第二第三砲ノ榴彈ハ深ク林内ニ入ラスシテ破裂スヘシト雖餘砲ノ彈丸ハ遠ク内部  
 ニ及フヲ得ヘシ村落ヲ  
 射撃スルモ又之ニ同シ)

攻者ノ砲兵ハ少ナクモ守者ノ砲兵ヲ沈黙セシメ攻撃點ニ彈丸ヲ雨注シ障礙物ヲ破壊シ且縁端守  
 兵ヲ驅逐スルコトヲ勉ム殊ニ村落ニ在リテ特ニ攻撃點ニ破墻孔ヲ作り村落内ニ火災ヲ起サシム  
 ルコトヲ計ルヘシ若此準備火戰十分ナラサルニ先タチ攻撃ヲ實施スルトキハ縦ヒ攻撃功ヲ奏ス  
 ルモ大ナル損害ヲ受ケ或ハ不幸ニシテ全ク失敗ヲ來スコトアルヘシ

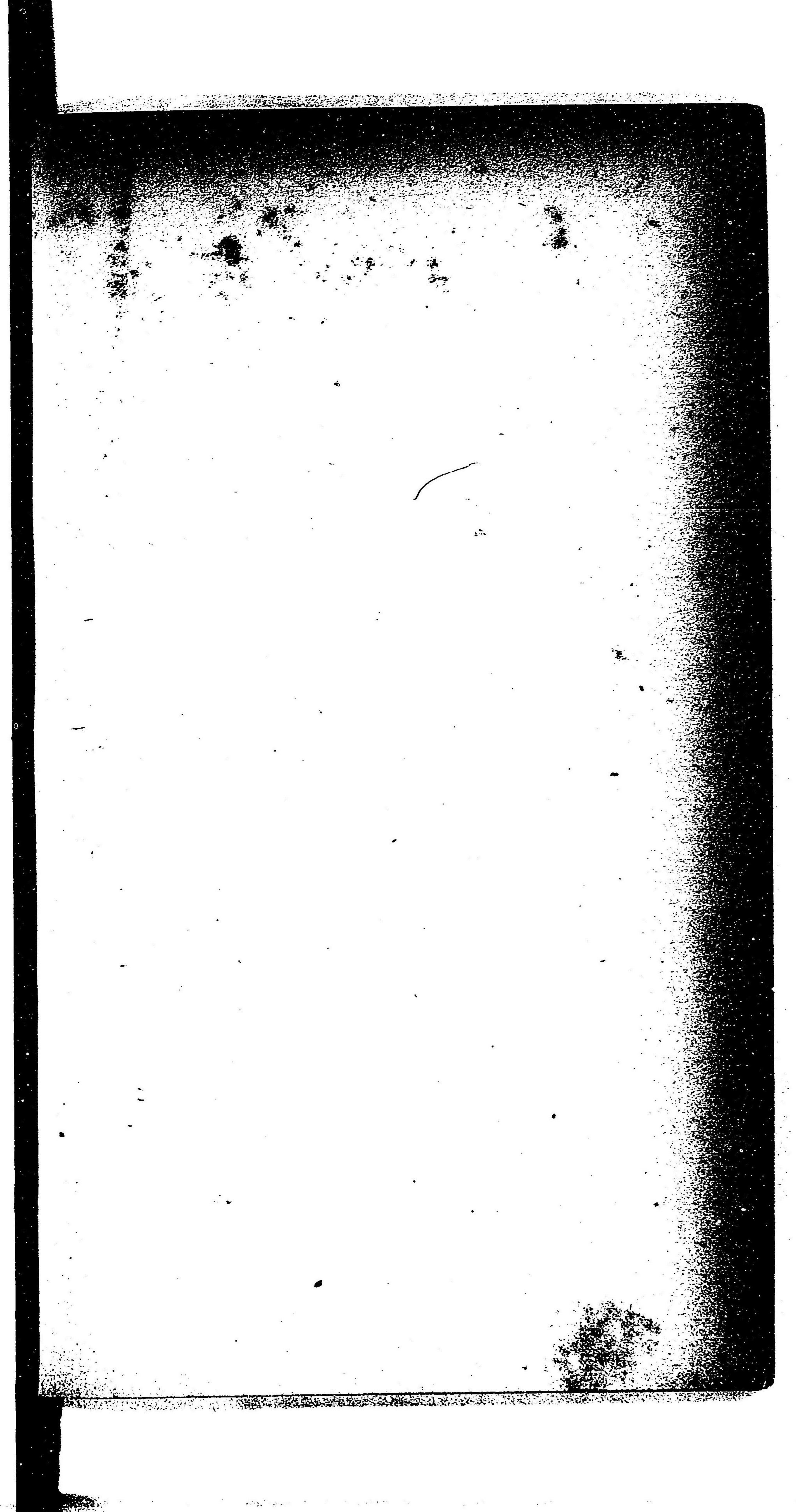
攻撃歩兵已ニ前進シ村落(森林)ニ近ツキ彼我ヲ區別シ能ハサルニ至ル迄ハ砲兵ハ盛ニ射撃ヲ繼  
 續ス其既ニ損害ヲ友軍ニ加フルニ至レハ内部ヲ射撃ス

狀況之ヲ許セハ複廊ト推測スル地ヲ射撃シテ之ヲ破壊スルコトヲ努ムヘシ

(例) Sedan 附近ノ戰鬪ニ La Yvergne 林内ニ Querimone 農場ヲ破壊セルカ如キ是ナリ

住民地及森林之戰鬪上卷終







明治四十三年一月二十日印刷  
明治四十三年一月二十五日發行

著者兼  
發行所

東京市牛込區若松町百五十番地

上田 賴三

印刷者

東京市芝區櫻川町十七番地

山田 三太郎

印刷所

東京市芝區櫻川町十七番地

山田 活版所

東京市牛込區若松町百五十番地(陸軍戸山學校前通り)

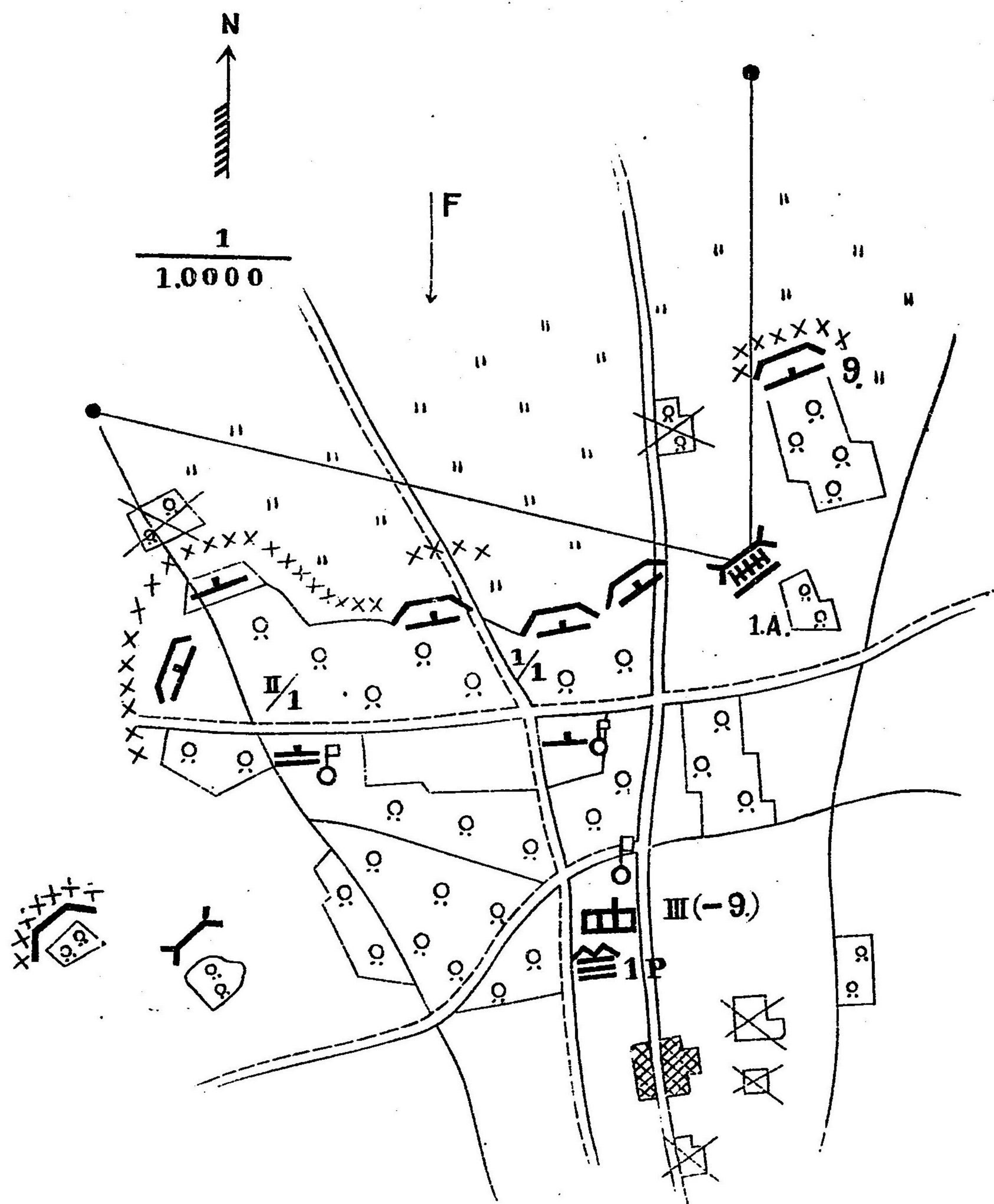
發行所

軍需會

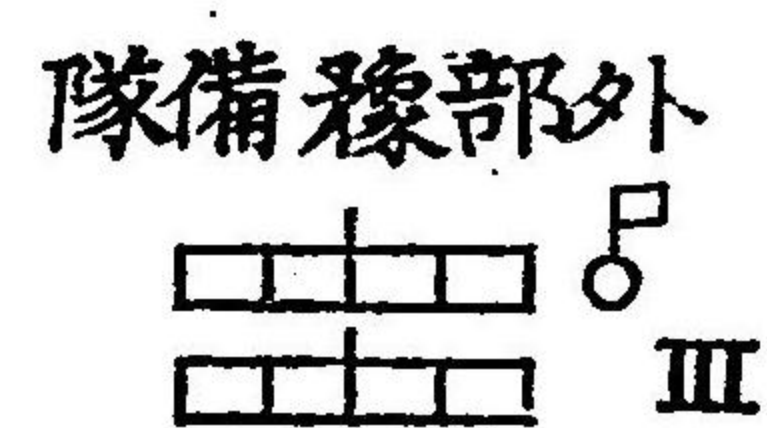
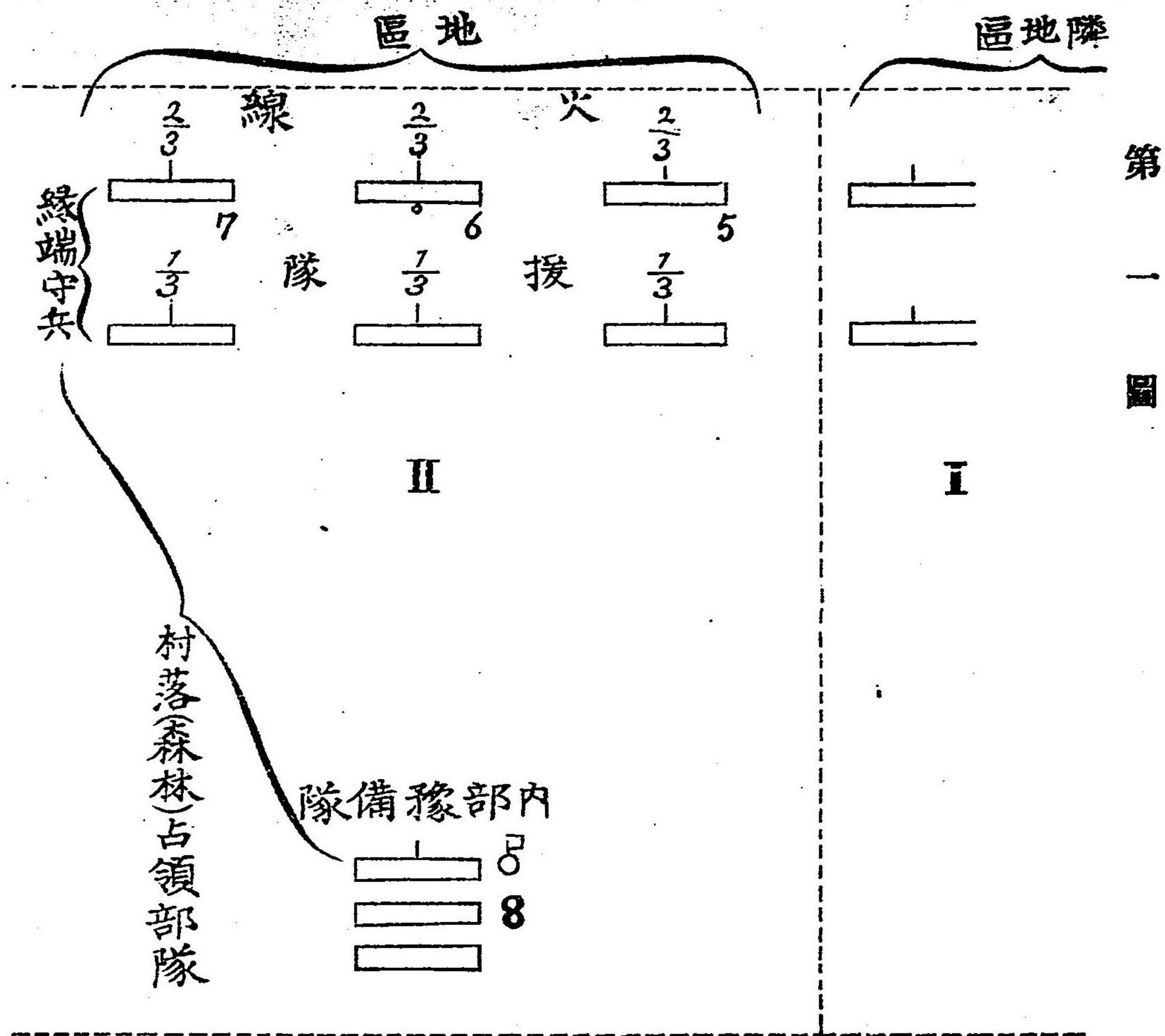
電話番町一四七一番  
發售處  
振替貯金口座東京五四一六番



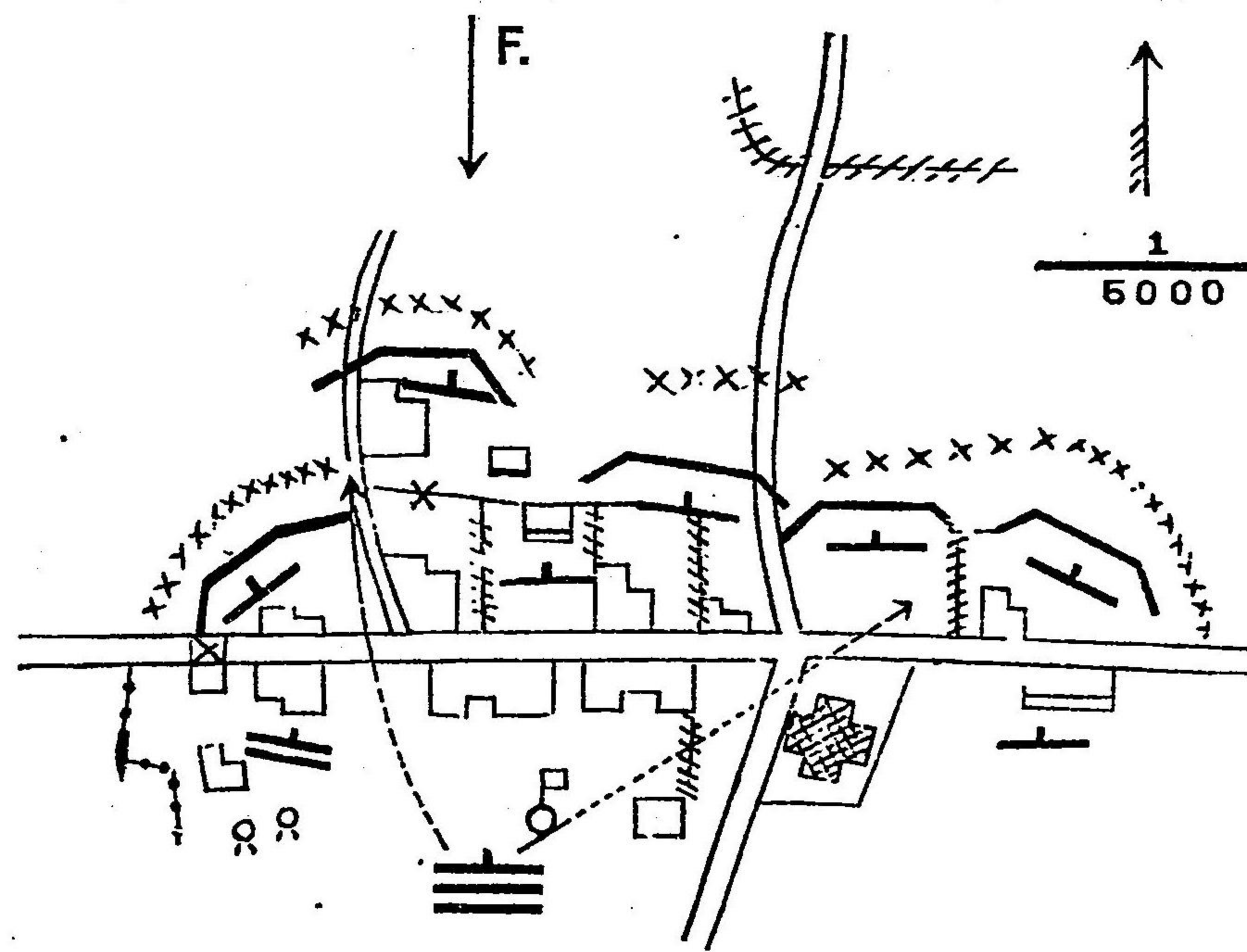
例ノ禦防林森隊支一



第三圖



例一ノ禦防立獨落村隊大一兵步



第一圖

第二圖



## ◎爲替金は振替貯金を替に限る

●小爲替證書等にて御送金の際に紛失あるも調査行届がたし然るに振替貯金を爲替は爲替料を要せず紛失の憂なく殊に其用紙裏面に通信文を記載するの便利あり本會の振替貯金口座番號は(東京第五四一六番)に有之候該用紙は各地何れの郵便局にても備付ある筈なり可成此便法を御利用相願度候(但金高の多少に拘らず登記料金二錢御加送のこと)

東京市牛込區若松町百五十番地(陸軍戸山學校前通り)

軍需會

電話番町一四七一番  
發電略號(グ)五  
振替貯金口座東京五四一六番

軍需會出版部發行

# 步兵操典衍義

全一冊 正價金四拾錢  
郵税金 六錢

四十三年一月下旬出版

改正步兵操典ハ簡明平易ノ文章ト語句トヲ用ヒラレアルヲ以テ之ヲ熟讀研究セハ毫モ質疑ノ起ルヘキ理ナシ從テ之ニ紛シキ私解ヲ施シ或ハ應用スヘキ例規ヲ作爲スルカ如キハ操典ノ本旨ヲ研究シ改正ノ眞味ヲ咀嚼スルハ正ニ必須ノ事タルヘシ

本書ハ此目的ニ依リ某將校カ二三後進者ノ爲メ操典ノ條項ヲ逐フテ精細ニ研究縷述セラレタル摘録ニシテ操典ノ研究上價值頗ル大ナルモノアルヲ以テ汎ク衆ト其利益ヲ頒タント欲シ切ニ其記録セラレタル手簿ヲ請フテ茲ニ之ヲ出版スルコトトセリ

希クハ弊商會ノ献身的微衷ノ存スル所ヲ察シ速ニ一讀アラシムコトヲ祈ル



軍需商會出版部發行

# 住民地及森林之戰鬥

上下全二冊豫約價 上卷 金四拾錢 郵稅各金四錢宛  
下卷 金四拾錢

上卷二月發行 下卷二月發行

本書ハ該當有益ナル學者ノ編著ニシテ其内容ハ從來發刊ノ書籍ト異ニシテ頗ル詳細ニ住民地及森林ノ戰鬥ヲ論シタルモノニシテ秩序整然理論明晰加之引證確實眞ニ近來ノ好著ト爲ス苟モ住民地及森林ノ戰鬥ヲ研究セラレントスル各位ハ座右ニ一本ヲ備ヘラルルヲ希望ス

製本ハ頗ル美麗殊ニ上欄ニ空位ヲ存シ各位ノ記入ニ便トス  
○目次概要左ニ(細目記載ヲ省略ス)  
上卷 ●第一章 特性、用途及具備スベキ要件 ○第一節 防禦上村落及森林ノ特性及用途 ○第二節 村落ノ具備スベキ要件 ●第二章 守者 ○第一節 周縁、複郭、地障 ○第二節 防禦ノ部署 ○第三節 防禦ニ於ケル諸兵種ノ用法 ○第四節 守者ノ兵力及區分 ●第三章 攻者 ○第一節 攻撃ニ於ケル兵力區分及諸兵種ノ用法 ○第二節 偵察及砲戰 ○第三節 內部ノ戰鬥 ○第四節 退却及追擊 ●第五章 大ナル住民地又ハ森林ノ出口ニ對スル戰鬥 ○第六章 市街戰 ●第七章 日獨埃佛英ノ規定

## 豫約出版

軍需商會出版部發行

# 步兵戰術講義錄

壹冊ニ付豫約金貳拾五錢宛 郵稅金四錢宛

二月ニ第一卷ヲ發行シ爾後毎月一冊宛ヲ發行ス

約十二冊ヲ以テ結了ノ豫定

本書ハ戰術家トシテ有名ナル某大家之著述ニシテ其ノ要ハ從來ノ著書トハ面目ヲ異ニシ步兵戰術ヲ詳論シ日本新操典及各國操典ヲ引用シ兼テ步兵ト關連セル各兵種ノ戰鬥法ニ論及シ以テ軍學研究ノ一端ニ備エントス讀者諸君ノ爲メ些末ノ資ト爲ラバ弊會ノ光榮トスル所ナリ

## 豫約出版



四十三年一月三日出版

# 步兵教育問答

全一册

正價金 貳拾錢  
郵税金 貳錢

兵卒ノ教育中最モ困難ナルモノハ野外教育ナリ而シテ其ノ中殊ニ須要ニシテ且至難ナルハ斥候及歩哨ノ教育ナラム本書ハ編者ガ多年ノ研究ト實驗トヲ筆ニシテ教育上ノ便ヲ計リ之ヲ問答體ニ説述セラレタルモノニシテ殊ニ特色トスル所ハ答解ノ凡テ談話的ナルニ在リ故ニ新兵係タル幹部諸君ハ勿論有志諸賢ノ參考書トシテ欠クベカラザル好侶伴ナリト信ズ

四十三年二月上旬出版

# 步兵教育問答

全一册

正價金 貳拾錢  
郵税金 貳錢

(附リ距離測量教育)

野外ニ於ケル動作ノ教育中斥候歩哨ニ關スル著書ハ多々アリト雖モ未タ傳令使。連絡兵ニ關スルモノ少キハ甚タ遺憾トスル處ナリ  
本書ハ著者ガ多年教育ノ衝ニ當リ計畫實施セラレシ事項ヲ綿密ニ筆ニセラレシモノニシテ尙距離測量ノ教育ヲ始メ附録トシテ兵語。地區。地物ノ名稱。徵候。方位ニ關スル教育法ヲ問答體ニ記述セラレタルヲ以テ新兵係タル幹部諸君ハ勿論苟モ之ガ教育ニ從事セラレル諸士ノ一讀再讀スベキ最好書ナリ

四十二年十一月出版

# 改正步兵教練問答

全一册

正價金 拾錢  
郵税金 貳錢

本書ハ步兵教練ニ於テ教官タリ助教タリ。或ハ小隊長タリ分隊長タル下士上等兵諸士ノ爲メ改正步兵操典ニ就キ其任ヲ盡サル、ニ方リ直接最モ必要ナル條項ヲ問答體ニ記述シ以テ一ハ自習ノ用ニ供スルト共ニ一ハ操典研究ノ主眼點ヲ例示シタルモノナレハ下士上等兵諸士ハ勿論上ハ其教官タルベキ將校ヨリ下ハ下士上等兵候補者諸士ノ爲メ好參考書タルベシ

四十三年一月改訂第三版

# 下士教育手簿

全一册

正價金 貳拾錢  
郵税金 貳錢

●下士ニ教授スベキ事項并ニ程度ノ標準ヲ示シ有バ教官ノ勞ヲ煩ク特色アリ

●下士ニ學科試問ヲナスベキ問題作製ノ好侶伴タリ

●下士諸君ガ自己ノ職責ヲ謁クス爲メ知得スベキ學識ハ此一本ニテ得ラル

●下士諸君ガ教官トナリテ上等兵以下ノ教育ヲナスニモ好侶伴タリ

●時ト場所トヲ問ハズ教育ヲ實施シ得ル本手簿ノ意匠ヲ閱セヨ

●教育普及ナル特色ヲ有ス

●簡單明瞭ニ個人教育ニモ集團教育ニモ資ス

# 本書

五



陸軍少將渡邊祺十郎閣下閣  
陸軍步兵大佐橋本勝太郎殿校訂  
陸軍工兵中佐松井庫之助殿校訂  
陸軍步兵少佐向西兵庫殿校訂  
陸軍步兵少佐渡邊壽殿校訂  
陸軍步兵大尉奧田昇殿編纂  
正價金壹圓四拾錢  
郵税金拾貳錢

●訂野外要務私解 全四冊壹部  
第一卷 正價金四拾錢 郵稅四錢  
第二卷 正價金四拾錢 郵稅四錢  
第三卷 正價金參拾錢 郵稅四錢  
第四卷 正價金參拾錢 郵稅四錢  
本書ハ野外要務令ノ各條項ヲ逐ヒ明瞭ナル解釋ヲ與ヘラレタルモノニシテ本令ト相對照シテ研究スルニハ頗ル便利有益ノ書ナルコトハ既ニ大方諸士ノ了知セララル、所ナリ

陸軍大學校兵學教官陸軍工兵中佐山田陸榎殿著

●改訂應用帥兵術 全一冊 正價金七拾錢 郵税金八錢

本書ハ著者が會テ陸軍大學校ニ於テ學生諸氏ニ應用戰術ヲ教授スルニ當テ記述セラレタルモノニ更ニ若干ノ増補ヲ加ヘラレタルモノニシテ獨立枝隊ニ於ケル軍隊ノ統帥法ヲ研究スルヲ主眼トシ殊ニ原則ト應用ヲ對照シテ詳細ニ說明ヲ加ヘタルモノナレハ青年將校諸氏ガ戰術研究ノ資料トシテ頗ル有益ノ參考書タルハ勿論特ニ陸軍大學校入學受験者ノ爲メニハ唯一ノ指針タルベシ  
本書第一版發行後編制ノ改正及野外要務令ノ改正發布アリ依テ著者ニ請ヒ本書中ニ於ケル部隊名稱及野外要務事項ノ說明並引用項目等總テ親切ナル改訂ヲ加ヘラレタル最良書ニシテ茲ニ第三版ヲ出版セリ

軍需商會編纂部著

●用兵問答 全三冊 各冊 正價金三十錢宛 郵税金四錢宛

第一卷 諸戰鬪之部 第二卷 野外帥兵之部 第三卷 補助學之部  
一、勞少ク時間少ク迅速容易ニ試験ノ準備ヲ成シ得ヘシ士官學校生徒各位ニハ尤モ適切ナリ  
二、本書ハ受験ノ經驗ヲ與ヘ如何ナル問題ニ遭遇スルモ敢テ憾セサルノ自信力ヲ養成シ得ヘシ  
三、陸軍大學校、士官學校等ノ試験問題ハ皆集收セラレアリ過去ノ試験問題ヲ知り將來ノ問題ヲト知スルノ好材料ナリ

軍需商會編纂部著

●兵學研究資料 全三冊 各冊 正價金二十五錢宛 郵税金四錢宛

●第一卷兵棋之部 ●第二卷圖上戰術之部 ●第三卷研究諸議題之部  
一、諸般ノ想定情況換言スレハ戰術研究ニ必要ナル應用問題ヲ掲ケタリ而カモ此諸問題ハ諸兵家ノ作ヲ編纂セルモノニシテ諸兵家ニ就テ考究スルト同價値ナリ  
二、兵棋ノ一般方略及特別方略ハ如何ニ構成スヘキヤ又圖上戰術現地講話等ノ想定ハ如何ニ組立ツヘキヤ又遭遇戰、陣地戰、偵察戰等各種別ニ從ヒ之ヲ研究スルニハ如何ナル想定ニ基クヘキヤ本書ハ悉ク之ヲ指示セリ  
三、兵學研究上吾人ノ着意シ注意ヲ拂フヘキモノハ如何ナル條件ナルカ、如何ナル方面ニ先ツ研鑽ノ針路ヲ取ルヘキカ本書ヲ繕ケハ明瞭ナルヘシ



陸軍步兵中佐隈部又雄殿著

### ●實際的步兵射擊學

全一冊

正價金 五拾錢  
郵稅金 四錢

本書ハ當座陸軍戸山學校戰術科教官タリシ隈部中佐殿ノ著書ニシテ其要領ハ步兵科ノミナラス尙モ小銃射擊教育ニ任シ射擊指揮、戰術射擊並檢閱射擊ノ計畫實施講評成績審査、試驗射擊等ノ任ニ當ル特校ニ必要ナル射擊學ヲ實際的ニ了解シ易ク説明シ計算ヲ要スルモノハ一々例式ヲ擧ケテ之ヲ指示シ尙モ三強國ノ最近射擊教育中ノ一部及個人ノ設ヲモ掲載シ比較的研究ニ供セラレタルモノナリ  
其他附録トシテ現今我邦步兵隊ニ多ク使用セラレテアル「スウシエ」式測量器、歩兵用「ダウリエ」式、最近獨國ニテ創造セシ「ヘンゾルト」式等ノ測量器ノ構造使用法及測量ニ當リ注意スヘキ諸件ヲ説明シ尙ホ明細ナル附圖ヲ以テ指示シ器械使用ノ便ニ供セラレタルモノナリ

軍需商會編纂部著

### ●戰術射擊擬習及實習

附錄共 全二冊

正價金 貳拾五錢  
郵稅金 貳錢

(攜帶用寸珍本)

○目次左ニ

- 一、戰術射擊擬習ト戰術演習トノ差異ヲ説キ戰術射擊擬習ノ主義ニ及ブ
- 二、戰術射擊擬習ト實習トノ差異ヲ説キ此兩者ノ實施上ニ於ケル主義ニ及ブ
- 三、戰術射擊ニ於テ研究スベキ範圍如何
- 四、射擊指揮トハ何ヲ謂フカ
- 五、戰術射擊計畫ニ就キ著意スベキ要點
- 六、想定(戰況)ノ構成上著意スベキ要點
- 七、指導法ニ就キ著意スベキ要點
- 八、講評ニ當リ著眼スベキ要點
- 九、効力判斷ヲナスニ當リ著眼スベキ要點
- 十、効力判斷ノ一例

#### 目次

同附録戰術射擊用計算簿

○使用法 ○三十年式歩兵銃効力表(三八銃ニ三〇年式彈ヲ用ヒタル時モ同シ) ○溫度ノ爲メ射程ノ増減 ○遠近減耗係數

○公算命中的數

### ●步兵之射擊指揮

全一冊

正價金 參拾錢  
郵稅金 四錢

軍需商會編纂部著

陸軍步兵中佐岡本茂若殿  
陸軍步兵少佐竹本竹治郎殿 合著

### ●改訂機關銃之戰術的用法

全一冊

正價金 四拾錢  
郵稅金 四錢

陸軍步兵大尉竹下範國殿

陸軍步兵中佐岡本茂若殿校訂  
陸軍步兵少佐竹本竹治郎殿校訂  
陸軍步兵大尉竹下範國殿著

### ●步兵機關銃教育方案

全一冊

正價金 四卅錢  
郵稅金 四錢

軍需商會編纂部著

### ●機關銃及取扱法問答

全一冊

正價金 貳拾錢  
郵稅金 貳錢

軍需商會編纂部著

### ●露軍機關砲ノ使用

全一冊

正價金 拾五錢  
郵稅金 貳錢

本書ハ實ニ露軍機關砲ノ操典ト稱スルモノナリ即チ砲ノ構造、馱載繫駕等ノ解説ハ之ヲ省略シ專ラ教練野外勤務並ニ掩蔽物築設等須要ノ事項ニ關シ普國某氏ノ著ヲ摘譯シ且ツ二十餘圖ヲ添附セリ彼我機關砲研究ノ爲メ頗ル有益ノ參考書タリ  
以上四種ハ相共ニ射照研究セハ頗ル有益ナル參考書タルハ敢テ多言ヲ待タス



陸軍歩兵少佐井上第五郎殿著

●訂正 再版 步兵夜間動作ノ教育

全一冊 正價金拾五錢 郵税金貳錢

夜間ニ於ケル軍隊ノ諸行動ハ如何ニ重且大ナリシヤハ最近戰役ニ於テ既ニ大方諸士ノ親シク經驗セラレタル處ニシテ從テ此レカ教育ニ關シテハ最モ深大ナル研究ト巧妙ナル手段ヲ要スルヤ明ナリ氏ハ深ク茲ニ鑑ミラル、處アツテ日夜研究ト巧大ニ斯道ニ關シ一般ノ針路トナル可キコトヲ策案セラレタリ就中先年本會ニ其製作ヲ命セラレ目下漸ク各隊ニ普カラントシツアル井上式隱顯燈ハ頗ル精巧ヲ極ムト雖モ其應用法ニ至リテハ夜間ノ教育方法ト相待タルヘカヲサレモ多シ爲メニ之カ使用法ニ關スル質議ノ輻輳シ來リタルヲ以テ今回氏ニ請ヒ此レカ説明ヲ主トシ尙ホ加ルニ特ニ戰役ノ實驗上得ラレタル教育手段ヲ講述セラレタルモノナリ

●夜間戰鬪

全一冊 正價金貳拾五錢 郵税金貳錢

本書ハ戰術研究ノ爲メ獨逸國著名ナル兵學者ノ嶄新著書ヲ骨幹トシテ著述セシ者ナリ 平澤耕平殿譯述

●斥候長

全一冊 正價金參拾五錢 郵税金四錢

本書ノ有名ナルハ最先讀者諸君ノ御了知アレバ喋々ノ辯ヲ待タス。此書ハ部數ニ限アリ御用ノ方ハ至急御購求アラシムコトヲ奉希上候

軍需商會出版部發行

●部隊戰鬪

全四冊壹部逐卷發行

第一卷 步兵中隊戰鬪 既刊

正價金四拾錢 郵税金四錢

第二卷 大隊戰鬪 既刊

正價金四拾錢 郵税金四錢

第三卷 聯隊戰鬪

第四卷 旅團戰鬪

本書第一卷ハ操典ニ示セル中隊戰鬪ヲ基礎トシ散開戰鬪ノ原則ニ從ヒ中隊戰鬪動作ヲ説明シ殊ニ歐洲諸強國ノ砲兵ノ射法及彈丸ノ効力ニ基キ砲火ノ下ニ於ケル歩兵ノ動作并射擊指揮ヲ十分ニ攻究シアレハ下級指揮官ノ好指針タルヘシ、第二卷ハ大隊戰鬪、第三卷ハ聯隊戰鬪、第四卷ハ旅團戰鬪ニシテ何レモ操典ノ原則ヲ明確ニ説明シタルモノニシテ應用戰術ト相待ツテ大ニ戰術上ノ智識ヲ増進セシムルモノナリ



# 陸軍大學校入學試験 好参考書

參謀次長 福島中將閣下題開  
步兵第十八旅團長 仙波少將閣下序開  
參謀本部第二部長 松石少將閣下題開  
教育總監部 參謀柴大佐殿校閱

參謀本部部員 三原中佐殿校訂  
參謀本部部員 黒澤少佐殿序文  
參謀本部出仕 山縣大尉殿著

## ●軍人精神教育之栞

全一冊

正價金 參拾錢  
郵稅金 四錢

本書ハ主トシテ新兵教育ニ從事スル青年將校ノ資料ニ供スルヲ目的トセルモノニシテ、皇室ノ尊嚴國體ヨリ延テ臣民ノ義務及軍隊及軍人ノ精神ヲ説キ加フルニ、勅諭五ヶ條ニ區分セル例談ヲ掲ケアリテ下士卒ノ好伴タルヲ得ヘシ

## ●陸軍歩兵少佐井上弟五郎殿編纂 下士精神訓戒集

全一冊

正價金 貳拾五錢  
郵稅金 四錢

本書ハ當時陸軍戸山學校ニ於テ其ノ教育ノ任ニ數年間從事セラレシ井上少佐殿ノ編纂ニシテ實際ニ適切ヲ穿テ爾良書ナレハ、中隊長ハ勿論新兵教育ノ任ニ當ル諸君ノ最モ好資料タリ

## ●軍人精神修養訓

全一冊

正價金 貳拾五錢  
郵稅金 四錢

本書ニハ東西古今ノ格言、名將先哲ノ訓言、教歌、遺訓等ハ勿論精神修養ニ資スヘキ金言ハ卑近ナル俚諺等ニ至ル迄之ヲ收録セラレアルヲ以テ、兵卒教育ノ資料トシテモ亦大ナル價值アルヲ信ス將校下士各位ハ勿論兵士諸君ハ速ニ本書ヲ座右ニ備ヘ以テ軍人精神ノ修養ニ供セラレンコト是レ軍國ノ爲メ切ニ希望スル所ナリ

軍需商會編纂部著

## ●精神教育問答

上下全一冊

正價金 貳拾錢  
郵稅金 貳錢

本書ハ著者カ實驗ニ基キ教育上ノ便ヲ計リ之ヲ問答體ニ記述セラレタルモノトス故ニ各位ノ參考タルハ勿論之カ教授上直接至便ナル好伴ナリ

軍需商會編纂部編纂

## ●陸軍大學校入學試験集

全一冊

正價金 貳拾錢  
郵稅金 貳錢

本書ハ明治二十二年以降四十年年度ニ至ル問題ヲ各科目毎ニ區分シ研究者ノ便ヲ計リタルモノナリ

軍需商會編纂部編纂

## ●陸軍大學校入學試験問題集

第一集

正價金 參錢  
郵稅金 貳錢

本書ハ明治四十一年度分ヲ掲出ス以下逐年發行ノ豫定ナリ

軍需商會編纂部編纂

## ●陸軍大學校入學試験數學問題答解

全一冊

正價金 貳拾五錢  
郵稅金 貳錢

本書ハ明治二十二年以降四十一年度再審試験ニ至ルマテノ數學問答ヲ答解セルモノニシテ研究セラル、諸士ノ爲メニ好參考書タリ







319  
234

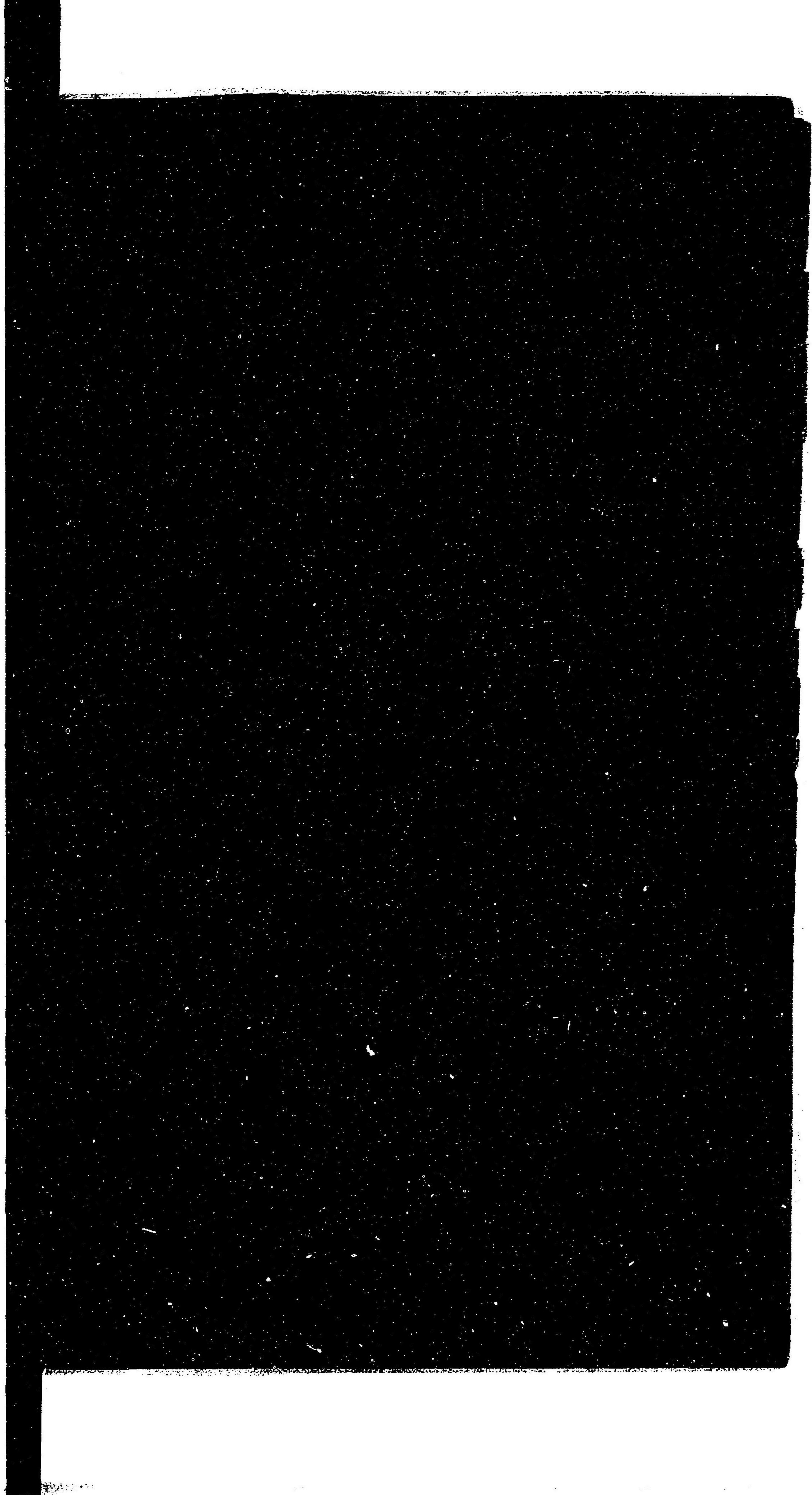
陸軍戸山學校戰術科御編輯

# 兵棋圖

- 奈良及郡山附近 三六面一組 金八圓
- 藤岡及兒玉町附近 八圓半錢 辛面一組
- 豐橋附近 八圓半錢 辛面一組
- 豐橋附近補足圖 大面一組 五圓半錢
- 知立町附近 八圓半錢 辛面一組
- 加古川町附近 八圓半錢 辛面一組
- 軍需商會編纂部發行 金拾參圓
- 轉換兵棋普通圖 六面一組 金六圓
- 轉換兵棋普通圖 六面一組 金五拾錢

- 陸軍戸山學校戰術科御用品  
軍需商會出版部調製
- ## ●兵棋隊標
- 各種器製共
- 新式兵棋隊標 正式ノ分 附屬品共 壹組 金貳拾五圓
  - 新式兵棋隊標 甲種ノ分 同 金六圓
  - 從來之形兵棋隊標 附屬品共 同 金貳拾五圓
  - 新式兵棋隊標用略附屬品 同 壹圓五拾錢
  - 携帶式應用隊標 明治四十二年十月發行
  - 天號 (地形圖ニ應用シ得ルモノ左ノ二種トス) 藍色、赤色共各一組 金參圓五拾錢宛
  - 地號 藍色、赤色共各一組 金貳圓五拾錢宛
- 但天號、地號ハ藍色、赤色等御入用品  
ヲ特ニ御指定ナキトキハ藍色ノ分ヲ  
上納可仕儀ト豫メ御了承ヲ奉願上候







051839-001-8

319-234

住民地及森林之戦闘

軍需商会

上

M43

BFB-0710

